

大正大学本 『源氏物語』 翻刻（葵）

大場 孝朗
魚尾 久

翻刻の経緯

- 一 本翻刻は、大正大学附属図書館によって貴重書画像として公開（ホームページ）されている大正大学本源氏物語を、パソコン教室でのリーディングの形式によって授業に取り入れたものである。
- 一 本翻刻は、平成二十年より日本語日本文学コースの授業「古典文学研究」でおこなった翻刻を基にして、それぞれ巻別の翻刻担当者によって精査したものである。
- 一 翻刻にあたっては、学修研究のためであるので、変体仮名の字母漢字も並列表記したところに特色がある。
- 一 当該授業は現在もおこなわれており、翻刻されたものは順次公開していく。

大正大学本源氏物語翻刻凡例

一 本翻刻は、大正大学附属図書館貴重書画像公開（ホームページ）から翻刻し、不明瞭なところは原本と照合する方法によった。

一 翻刻における頁の表記は、検索の便宜を図るため、ホームページにおける頁数を使用した（なお、ホームページをリニューアルしたため、番号を付す形式を「若紫」巻より変更した）。

例【桐壺】5

一 翻刻にあたっては、「変体仮名字母漢字（青色）」と「平仮名（黒色）」を並列表記した。

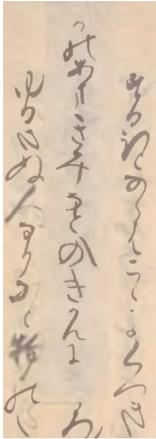
例 以徒蓮乃御時尔可女御更衣安末多左不良

いつれの御時にか女御更衣あまたさふら

一 附箋によって添付されている場合は、ホームページにしたがい、附箋のみの頁と本文の頁とにわけて翻刻をした。

例 附箋（可能安万幾美奈止乃幾可无尔）

（かのおまきみなどのきかんに）



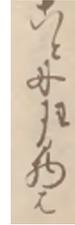
一行間の文字および補入文字は（ ） □にて本文に入れた。

例 古止丹尔（王）留物者

ことに（わ）る物は

民部少輔イ乃

民部少輔イの



一 見せ消ちは、そのまま表記して、「||」取り消し線を伏した。

例 「かゆ」

一 字母漢字は、旧字と略字が混用されているが、翻刻にあたっては通行体表記とした。

例 「禮」↓「礼」 「傳」↓「伝」

一 漢字は、旧字体と略字体とが混用されているが、通行体表記とした。

例 「國」↓「国」 「繪」↓「絵」

「哥」↓「歌」 「佛」↓「仏」

「聲」↓「声」

一 当て字は、そのまま表記した。

例 「さか月」(杯) 「伊与」(伊予)

一 当翻刻における巻別の担当責任者は、次の通りである。

「葵」 中島 紀子、首藤 卓哉

(魚尾 孝久)

【葵】 5

世中加波利伝後与路徒物宇久於
世中かはりて後よろつ物うくお

本左礼天御身乃屋武古止奈佐毛曾婦尔也
ほされて御身のやむことなさまそふにや

可流く之幾御忍比安利幾毛徒、
かるくしき御忍ひありきもつ、

末之久帝古、毛閑之己毛於保川可
ましくてこ、もかしこもおほつか

奈左乃奈介起遠加左祢給武久比丹也奈越王
なさのなけきをかさね給むくひにやなをわ

連耳川礼奈幾人乃御心遠徒支世寿能三於
れにつれなき人の御心をつきせずのみお

本之奈希久以万八満之天飛万奈久堂、
ほしなげくいまはましてひまなくた、

人農屋宇丹天曾比於者之末寸遠以満幾
人のやうにてそひおはしますをいまき

左起盤古、路也末之宇於保寿耳也宇地尔
さきはこ、ろやましようおほすにやうちに

【葵】 6

佐不良比太末部者多地奈良婦人奈雨心也寸気
さふらひたまへはたちならふ人なう心やすけ

奈利於利婦之丹志多可比天八御安曾比奈止遠
なりおりふにしたかひては御あそひなとを

己能末之宇世乃飛、久八可利世左勢給川、
このましよう世のひ、くはかりせさせ給つ、

以万乃御安利左満之毛女天多之太、春
いまの御ありさましもめてたした、春

宮遠曾以登恋之宇於毛比幾己盈給御宇之
宮をそいと恋しうおもひきこえ給御うし

呂三能奈幾遠宇之路女多久思比幾古衣天大
ろみのなきをうしろめたく思ひきこえて大

将農君耳与呂川幾己衣川希太末不毛可多
将の君によるつきこえつけたまふもかた

波良以多起物可良宇礼之宇於本春満己止也彼
はらいたき物からうれしうおほすまことや彼

六条乃宮春所乃御八良乃前坊乃姬宮齋宮
六条の宮す所の御はらの前坊の姫宮齋宮

【葵】7

耳井多末比丹之加者大将乃御
にみたまひにしかは大将の御

古、路波遍毛以登堂能毛之気奈幾遠
こゝろはへもいとたのもしけなきを

於左奈幾御安利佐万乃字之呂女多佐耳
おさなき御ありさまのうしろめたさに

古登徒気伝久多里屋之那末之登
ことつけてくたりやしなましと

可年天与利於本之遣里院耳毛
かねてよりおほしけり院にも

加、類古登奈止幾己之免之天
かゝることなきこしめして

故三也農以登屋无古登那久於
故みやのいとやんことなくお

本之登幾女可之太末比之
ほしときめかしたまひし

毛乃遠可類く之字遠之奈遍
ものをかるくしうをしなへ

【葵】8

多類佐万耳毛天奈寸奈類可
たるさまにもてなすなるか

以登於之幾事佐以久宇遠毛
いとおしき事さいくうをも

己乃御子堂地農津良耳
この御子たちのつらに

奈无於毛部半以津可多丹徒気
なんおもへはいつかたにつけ

天毛於路可奈良佐良武古楚与
てもおろかならさらむこそよ

閑良免古、呂濃春左飛耳
からめこゝろのすさひに

満可勢天寸幾和左寸流盤以
まかせてすきわさするはい

登世乃毛登幾於比奴部幾古登
と世のもときおひぬへきこと

那利奈登御氣之幾
なりなと御けしき

【葵】9

安之介礼者和可御心知丹毛氣尔止思比志良留礼半
あしければわか御心ちにもけにと思ひしらるれば

閑之己末利天佐不良飛給人乃多女波知加末之
かしこまりてさふらひ給人のためはちかまし

幾事奈久以川連遠毛奈多良可尔毛天奈之伝
き事なくいつれをもなたらかにもてなして

女乃宇良見奈於比曾登乃多滿者寸留尔毛氣之可良奴
女のうらみなおひそとのたまはするにもけしからぬ

心能於保氣奈左越毛幾己之免之川希太良无
心のおほけなさをもきこしめしつけたらん

時止於曾呂之遣礼半可之己滿利天末可天給
時とおそろしければかしこまりてまかて給

奴末多閑久院尔毛幾古之女之乃多滿八寸留丹
ぬまたかく院にもきこしめしのたまはするに

人乃御名毛我太女毛寸起加末之久以止越之幾
人の御名も我ためもすきかましくいとをしき

仁屋无己止奈久心久流之幾寸地尔八於毛飛幾
にやんことなく心くるしきすちにはおもひき

【葵】10

古盈太末遍登末多安良者礼帝八和左止毛天奈之幾
こえたまへとまたあらはれてはわざとめてなしき

己衣給波春女毛尔希奈起御止之乃本止遠波川
こえ給はず女もにけなき御としのほどをほつ

加之宇於本之天古、路止氣給者奴遣之紀奈連
かしうおほしてこゝろとけ給はぬけしきなれ

者曾礼丹川、見多流佐万丹毛天那之天院尔毛
はそれにつゝみたるさまにもてなして院にも

幾古之女之以連世中能人毛志良奴奈久成尔
きこしめしいれ世中の人もしらぬなく成に

多留遠婦可宇之毛安良奴御心乃本止遠以美之久
たるをふかうしもあらぬ御心のほとをいみしく

於本之奈介起介利閑、流事遠幾、太末不丹
おほしなけきけりかゝる事をきゝたまふに

毛安左可保乃姫君八以可天人丹、之止婦可宇於
もあさかほの姫君はいかて人にゝとふかうお

保世八波可奈幾佐万奈利之御返奈止毛於左く
ほせははかなきさまなりし御返などもおさく

【葵】 11

奈之佐利止天人丹久、波之多奈久八毛天那之
なしさりとて人にく、はしたなくはもてなし

多万波奴御氣之幾遠君毛奈越古登奈里
たまはぬ御けしきを君もなをことなり

止於保之王多流大殿尔八加久乃三左太女奈幾御心
とおほしわたる大殿にはかくのみさためなき御心

遠古、呂徒幾那之止於保世止安未利徒末奴御
をこゝろつきなしとおほせとあまりつつまぬ御

氣色乃以婦可比奈介礼半耳也安良武不可久毛
氣色のいふかひなければにやあらむふかくも

衣武之幾古衣多万波春心久流之幾佐万乃御心
えむしきこえたまはず心くるしきさまの御心

知丹奈也三給天物古、路保曾計丹於保盈多里
ちになやみ給て物こゝろほそけにおほえたり

女川良之久阿者礼登思比幾己衣草末比天太連毛く
めつらしくあはれと思ひきこえたまひてたれもく

宇礼之幾毛乃可良遊、之宇於本之帝左満く乃
うれしきものからゆ、しうおほしてさまくの

【葵】 12

御津、之見世左世太末川利給加也宇奈留保止
御つゝしみせさせたてまつり給かやうなるほと

以止、御心乃以止満奈久伝於本之遠己多留止八奈
いと、御心のいとまなくておほしをこたるとはな

介礼止、多衣於保可流部之曾乃比齋院毛於里為
けれど、たえおほかるへしその比齋院もおりあ

太末比天幾左起八良乃女三宮為給奴見可止幾
たまひてきさきはらの女三宮の給ぬみかとき

佐幾以止、古止丹思比幾古盈多末部留宮奈礼
さきいと、ことに思ひきこえたまへる宮なれ

者寸地己止尔成給不遠以止久類之宇於保之
はずちことに成給ふをいとくるしうおほし

多礼止幾之幾奈止川祢乃可武和左奈連登以
たれときしきなとつねのかむわさなれとい

可女之宇乃、之流祭能本止加幾利阿留大也希
かめしうの、する祭のほとかきりある大やけ

事丹曾婦己止於保久見所己与那之人可良登
事にそふことおほく見所こよなし人からと

【葵】 13

美盈多利御禊乃日可武多知免奈止教佐多
みえたり御禊の日かむたちめなど教さた

満里天徒加宇末川利給和左奈礼止於保衣古止丹
まりてつかうまつり給わさなれとおほえことに

加多地安流閑幾利志多加左年能色宇部乃波可満
かたちあるかきりしたかさねの色うへのはかま

乃毛无馬久良末三那止、乃盈多利登利和幾
のもん馬くらまでみなどゝのえたりとりわき

堂留宣旨丹天大将乃君毛川可宇満徒里太万
たる宣旨にて大将の君もつかうまつりたま

飛可年天与利物見久留満心津可比之介利一条乃於保
ひかねてより物見くるま心つかひしけり一条のおほ

地所奈久武久徒希起末天佐王幾太里登己
ち所なくむくつけきまでさわきたりとこ

路く乃左之幾古、呂く仁志津久之多流志川
ろくのさしきこゝろくにしつくしたるしつ

良比人能袖久知左部以美之幾見物奈利大殿
らひ人の袖くちさへいみしき見物なり大殿

【葵】 14

仁八加屋宇乃御安利幾毛於左く之多万者奴丹
にはかやうの御ありきもおさくしたまはぬに

御心地佐部奈也満之介礼半於本之可気佐利介流
御心ちさへなやましければおほしかけざりける

遠和可幾人く以天也遠能可止地日起忍比天美
をわかき人くいてやをのかとちひき忍ひてみ

侍良武己曾波衣奈可留部介礼於保与楚人多耳
侍らむこそはえなかるへけれおほよそ人たに

介不乃毛乃美尔八大将殿遠己曾安也之幾山可川
けふのものみには大将殿をこそあやしき山かつ

佐部見多天末川良无止寸奈連止越幾久丹く与里
さへ見たてまつらんとすなれとをきくにくより

女己越飛支久之津、満宇天久奈流遠御覽
めこをひきくしつ、まうてくなるを御覽

世奴盤以登阿末里毛侍留可奈止以不遠宮幾
せぬはいとあまりも侍るかなといふを宮き

古之免之伝御古、地与呂之幾飛万也佐不
こしめして御こ、ちよろしきひま也さふ

【葵】15

羅不人く毛佐宇く之希奈女里登天仁者加尔
らふ人くもさうくしけなめりとしてにはかに

御車女久良之於保勢給天見給日多氣遊
御車めぐらしおほせ給て見給日たけゆ

幾帝幾之支毛和左止奈良怒佐万丹天以天
きてきしきもわざとならぬさまにていて

太万遍里比末毛奈久多地和多利多留耳与
たまへりひまもなくたちわたりたるによ

楚遠之宇飛幾川、幾天立王川良婦与起女房
そをしうひきつゝきて立わつらふよき女房

久流万於保久伝佐宇く乃人奈幾比万遠於毛比
くるまおほくてさうくの人なきひまをおもひ

左太女天三那左之乃計左寸留中丹安之呂能
さためてみなさしのけさする中にあしらの

寸古之奈礼多留可志多寸多礼乃左満奈止与之者
すこしなれたるかしたすたれのさまなどよしは

女類耳以多宇飛幾入天本能可奈留袖久地毛
めるにいたうひき入てほのかなる袖くちも

【葵】16

乃寸止加左見奈止物能色以止幾与良仁天古登
のすそかさみなと物の色いときよらにてこと

左良丹屋川連多流気者比志流久三由留車二
さらにやつれたるけはひしるくみゆる車二

安里已連八左良仁左也宇尔佐之乃気奈止寸部
ありこれはさらにさやうにさしのけなどすへ

幾御車尔毛安良春止久地己波久伝手婦連
き御車にもあらずとくちこはくて手ふれ

左世春以徒可多尔毛和可幾毛乃止毛恵比寸起多
させすいつかたにもわかきものともゑひすきた

地左波幾堂流保止乃事盈志多、免安部春
ちさはきたるほどの事えしたゝめあへす

遠止奈く之起御前乃人く八閑久奈、登以部止
をとなくしき御前の人くはかくな、といへと

衣止、女阿部寸齋宮乃御波、宮春所毛乃於
えとゝめあへす齋宮のおは、宮す所ものお

本之三多類、奈久佐女尔母也止忍天出当万部類
ほしみたるゝなくさめにもやと恐て出たまへる

【葵】 17

那利介利川礼奈之徒久連東遠能
なりけりつれなしつくれとをの

津可良見志利奴佐者可利丹天八佐奈
つから見しりぬさはかりにてはさな

以者世楚大将殿遠曾可宇氣耳八思
いはせそ大将殿をそかうけには思

幾已遊良武奈登以不遠曾乃御可多
きこゆらむなといふをその御かた

能人毛満之連、波以止越之登
の人もましれ、はいとをしと

見那可良与婦井世无毛王川良八之
見なからよふぬせんもわつらはし

氣礼半志良須可保徒久類徒井丹
ければしらすかほつくるつみに

御久留満止毛堂天川、氣川連半
御くるまともたてつ、けつれは

人太末比乃於久耳於之屋良礼
人たまひのおくにおしやられ

【葵】 18

天毛能毛見衣春古、路也末之幾
てものも見えすこ、ろやましき

遠者佐留毛乃耳伝可、流屋徒連
をはさるものにてかゝるやつれ

遠曾礼止之良礼奴留可以美之宇称多
をそれとしられぬるかいみしうねた

幾古登閑幾利奈之志地奈止毛
きことかきりなししちなとも

美奈於之於良礼天曾、呂奈流車乃
みなおしおられてそゝろなる車の

止宇知耳宇地可氣太連者又那久
とうちにうちかけたれは又なく

人和呂久、也奈丹、幾川良武止於
人わろく、やなに、きつらむとお

毛不耳可比那之毛能毛見伝可
もふにかひなしものも見てか

遍良无登之太末部止止越利以天武
へらんとしたまへとをりいてむ

【葵】19

飛万毛奈幾耳古登奈利奴登
ひまもなきにことなりぬと

以遍者佐春可仁津良幾人農御前
いへはさすかにつらき人の御前

和多利乃末多留、毛古、呂与八之也
わたりのまたるゝもこゝろよはしや

左、能久満耳多尔安良祢者耳屋
さゝのくまにたにあらねはにや

徒連奈久寸起遊久耳川気天毛
つれなくすきゆくにつけても

中く御古、呂津久之奈良遣尔
中く御こゝろつくしなりけに

川年与利毛己乃三止、乃部多類
つねよりもこのみとゝのへたる

久流万止毛乃王礼毛く止乃利己保
くるまともわれもくゝとのりこほ

連多流志多寸多礼乃寸起万止毛、佐良奴
れたるしたすたれのすきまとも、さらぬ

【葵】20

可保奈礼登本遠惠末礼川、志里女仁
かほなれとほをゑまれつゝしりめに

登、免太末不毛大殿乃八志流介礼者満
とゝめたまふも大殿のはしるければま

女多知天和多利太末不御止毛乃人く
めたちてわたりたまふ御ともの人く

宇地可之己末利古、留波部阿里和多
うちかしこまりこゝろはへありわた

類遠、之気多連多留安利佐万己
るを、しけたれたるありさまこ

与奈久於保左流
よなくおほさる

加氣遠乃三見太良之川乃川連奈幾
かけをのみみたらし川のつれなき

耳身農宇起本止曾以止、志良留、
に身のうきほとそいとゝしらるゝ

止奈美多乃己本流、遠人農美留袈
となみたのこほるゝを人のみるも

【葵】21

波之多奈計連登免毛阿也奈流御
はしたなけれとめもあやなる御

佐万加多知乃以登、之幾出波部
さまかたちのいと、しき出はへ

遠見左良満之可八止於保佐留本止く
を見さらましかはとおほさるほとく

耳津氣天佐左久人乃安利左満
につけてさうさく人のありさま

以見之字登、乃遍多利止三由留中
いみしうと、のへたりとみゆる中

丹毛上達部八以止己登奈留越一止己呂
にも上達部はいとことなるを一とこと

乃御飛可利仁盤於之遣多礼太女里
の御ひかりにはおしけたためり

大將殿乃御加利乃隨身耳殿上
大將殿の御かりの隨身に殿上

乃曾宇奈止乃寸流事八川年乃事尔毛
のそうなどのする事はつねの事にも

【葵】22

安良春女川良之幾行幸奈止乃於
あらずめつらしき行幸などのお

里乃和左奈流遠介不八右近藏人乃曾不
りのわさなるをけふは右近藏人のそふ

徒可宇末川連利佐良奴御隨身止毛加多地
つかうまつれりさらぬ御隨身ともかちち

寸可多満者由久止、乃遍天世尔毛天加之徒
すかたまはゆくと、のへて世にもてかしつ

可礼多万遍流佐万本草毛奈比可奴八安流
かれたまへるさま本草もなひかぬはある

満之氣奈利徒本佐宇楚久奈止以婦
ましけなりつほさうそくなといふ

寸可多丹天女八良乃以屋之可良奴也又安万奈止
すかたにて女はらのいやしからぬや又あまなど

乃世遠曾武幾計留奈止毛多宇礼末呂比川、物美丹
の世をそむきけるなともたうれまろひつ、物みに

出多留毛連以八安奈可地也也安奈丹久止見由留仁
出たるもれいはあなち也やあなにくと見ゆるに

【葵】 23

遣婦八古登八利丹口宇地寸計三天髮幾己女太留安
けふはことほりに口うちすけみて髪きこめたるあ

屋之乃物止毛乃手遠徒久利天飛多比尔安帝川、見
やしの物ともの手をつくりてひたひにあてつ、見

多天末川利安計多留毛於己可滿之遣奈留志川乃於末天
たてまつりあけたるもおこかましけなるしつのおまで

遠乃可加保乃奈良武左滿遠八志良天盈三佐可部多里奈
をのかかほのならむさまをはしらてえみさかへたりな

丹止毛見以礼太末不末之幾患世受領乃武春女奈止
にとも見いたまふましき糸せ受領のむすめなど

佐部心乃加幾利徒久之多流車止毛尔乃利左滿古登
さへ心のかきりつくしたる車とものにりさまこと

左良比心気佐宇之多留奈武於可之幾也宇く乃三物那
さらひ心けさうしたるなむおかしきやうくのみ物な

里計留末之天古、可之己仁打忍比天加与比給所く
りけるましてこ、かしこに打忍ひてかよひ給所く

八人志礼乃三数奈良奴奈介起滿左留毛於保可利遣里式
は人しれのみ数ならぬなけきまさるもおほかりけり式

【葵】 24

部卿宮佐之幾丹天曾見太末比計留以登滿者
部卿宮さしきにてそ見たまひけるいとまは

由起末天称比行人乃御可多地可那
ゆきまてねひ行人の御かたちかな ■ ■

登八女毛古楚登免太末遍登遊、
とはめもこそとめたまへとゆ、

之久於本之多利飛免幾美
しくおほしたりひめきみ

盤止之古路幾古遍天太末婦
はとしころきこへてたまふ

於保於无古、呂波遍農飛止耳
おほおんこゝろはへのひとに

耳奴遠那乃免奈良無仁天
にぬをなのめならむにて

太耳阿利末之天閑宇之毛
たにありましてかうしも

伊可伝登御古、路
いかてと御こゝろ

【葵】25

登末里介利以止、地可久伝見衣无満天八於本之
とまりけりいと、ちかくて見えんまてはおほし

与良寸和可幾人く、盤聞丹久起末天女帝幾己
よらすわかき人くは聞にくきまてめてきこ

盈安遍里祭乃日八大殿尔八物見多万波春大
えあへり祭の日は大殿には物見たまはず大

将乃君可能御車乃所安良曾比遠末年比幾
将の君かの御車の所あらそひをまねひき

己由累人阿里介礼半以止、遠之宇於本之天奈越
こゆる人ありければいと、をしうおほしてなを

安多良於毛里加尔於者寸流人乃物耳奈左計遠
あたらおもりかにおはする人の物になさけを

久礼寸起くく之幾止己呂川幾給遍良安末里仁
くれすきくしきところつき給へるあまりに

身徒可良八佐之毛於保左、里計女止閑、流奈
みつからはさしもおほさ、りけめとかゝるな

可良比八奈左計可八寸部幾毛乃止毛於保以多良奴御心
からひはなさけかはすへきものともおほいたらぬ御心

【葵】26

遠幾天丹志多可比天徒幾く、与加良奴人乃世左世
をきてにしたかひてつきくよからぬ人のせさせ

多流奈良武可之三也春所八心者世乃以登波川可之
たるならむかしみやす所は心はせのいとほつかし

久与之安利天於者寸留物遠以可丹於本之宇武
くよしありておはする物をいかにおほしうむ

志耳遣无登以止越之宇天満宇天太末部里介礼止
しにけんといとをしうてまうてたまへりけれと

左以宮乃末多毛止乃宮丹於八之末世八左可木乃
さい宮のまたもとの宮におはしませはさか木の

八、可里仁事津天心也春久毛太以女之給者寸
は、かりに事つて心やすくもたいめし給はず

古登八里止於本之那可良奈曾也加久可多見仁
ことほりとおほしなからなそやかかかたみに

楚者くく之加良天於者世之登宇地川不屋可連
そはくしからておはせしとうちつふやかれ

給介不八二条院耳者奈礼遠者之伝祭美丹
給けふは二条院にはなれをはして祭みに

【葵】27

出太末不丹之乃多以耳和多利給天惟光丹車
出たまふにしのたいにわたり給て惟光に車

乃事於保世多里女房以天多川屋止乃給天姬君
の事おほせたり女房いてたつやとの給て姫君

能以登宇川久之希丹徒久呂比堂天、於者寸流
のいとうつくしけにつくろひたて、おほする

遠宇知恵三天見多天末川利太末不君八以左給部
をうちえみて見たてまつりたまふ君はいさ給へ

毛呂友耳見无丹止天御久之乃川年与利毛計不
もろ友にみんにとて御くしのつねよりもけふ

羅耳三由留遠可起奈天多末比天飛左志久曾
らにみゆるをかきなてたまひてひさしくそ

幾給者左女留越介不八与起日奈良无可之止天已
き給はさめるをけふはよき日ならんかしてこ

与見乃波可世女之天時止八世奈止之給程耳
よみのはかせめして時とはせなとし給程に

末川女房以天祢止天和良者乃寸可多止毛乃於可之遣
まつ女房いてねとてわらはのすかたものおかしけ

【葵】28

奈流遠御覽春以登羅宇多計奈流髮止毛乃
なるを御覽すいとらうたけなる髪ともの

寸曾者那也可尔曾起和多之帝宇幾毛无乃宇遍能波可
すそはなやかにそきわたしてうきもんのうへのはか

満耳可、礼留本登氣左也可耳美由君乃御久之八
まにかゝれるほとけさやかにみゆ君の御くしは

王礼楚可武止天宇多天止己呂世宇毛安流可那以可
われそかむとてうたてところせうもあるかないか

丹於比屋良武止寸覽止天曾幾王川良飛給以止
におひやらむとす覽とてそきわつらひ給いと

和可幾人毛飛多以可美八寸古之美之閑久曾阿
わかき人もひたいかみはすこしみしかくそあ

女類遠武氣仁遠久礼多留春地乃奈幾也安末利
めるをむけにをくれたるすちのなきやあまり

奈左計奈可良武止天曾起波天、千比呂止楚以者
なさけなからむとてそきはて、千ひろとそいは

為幾古衣給遠小納言安者礼丹可多之氣奈之止
ぬきこえ給を少納言あはれにかたしけなしと

【葵】29

見堂天末川累
見たてまつる

波可里奈幾千比呂乃曾己能美留婦左乃於飛
はかりなき千ひろのそのみるふさのおひ

遊久寸惠盤我乃三楚三无止幾古盈太末部者
ゆくすゑは我のみぞ見んときこえたまへは

千比路止毛以可天可志良武佐多女奈久三地比流
千ひろともいかにてかしらむさためなくみちひる

志保乃、止許可良奴耳物丹加幾徒氣天於者
しほのゝとけからぬに物にかきつけておは

寸流佐万羅宇くく之起毛乃可良和可宇於可之幾遠
するさまらうくしきものからわかうおかしきを

女天堂之登於保寿介不毛所奈久太知丹介里
めてたしとおほすけふも所なくたちにつり

武万波乃於止、乃本止丹多天王川良飛天上達
むまはのおとゝのほとにたてわつらひて上達

部乃久留滿止毛於保久伝毛乃佐者加之氣奈留
部のくるまともおほくてもおささかしける

【葵】30

和多里可奈止也春良比太末婦耳与呂之幾女
わたりかなとやすらひたまふによろしき女

車以多宇乃里古保連多累与利安不幾遠佐之
車いたうのりこほれたるよりあふきをさし

以天、人遠末祢幾与世天古、丹也八多、世
いて、人をまねきよせてこゝにやはた、せ

太万八奴登己呂佐利幾古衣无止幾己盈堂
たまはぬところさりきこえんときこえた

里以可奈流寸幾物奈良武止於保左礼帝所毛
りいかなるすき物ならむとおほされて所も

遣仁与起和多利奈礼者飛幾与世左勢給天以可
けによきわたりなればひきよせさせ給ていか

天盈多万遍累止己呂曾止祢多佐耳奈登乃
てえたまへるところそとねたさになどの

太末部八与之安類阿不幾乃徒万遠於利天
たまへはよしあるあふきのつまをおりて

波可奈之也人乃可佐世流安不比由部神乃
はかなしや人のかさせるあふひゆへ神の

【葵】 31

由留之乃氣婦遠末地遺流志免能宇知仁者
ゆるしのけふをまちけるしめのうちには

止安流天遠於本之以川連者加乃典侍乃寸計乃
とあるてをおほしいつれはかの典侍のすけの

成介利安左滿之宇婦利加多久毛以滿女久可奈
成けりあさましうふりかたくもいまめくかな

登丹久左仁者之多奈久
とにくさにはしたなく

閑佐之介流心曾安多丹於毛保由留也楚宇地
かさしける心ぞあたにおもほゆるやそうち

人耳奈遍天安不日越女八川良之止於毛比己盈
人になへてあふ日を女はつらしとおもひこえ

氣利
けり

久屋之具毛加左之計累可那名乃三之帝
くやくもかさしけるかな名のみして

人堂能女奈流草葉八可利之遠人止安比能利天春
人たのめなる草葉はかりしを人とあひのりてす

【葵】 32

多礼遠多耳安氣多万波奴遠心也末之宇
たれをたにあげたまはぬを心やましう

思人於保可利一日乃御安利佐万乃宇流八之加里之
思人おほかり一日の御ありさまのうるはしかりし

丹介不盤宇知三多礼天安里幾給可之太連奈良武
にけふはうちみたれてありき給かしたれならむ

乃利奈良婦人氣之宇八安良之者也止遠之八可利
のりならふ人けしうはあらしはやとをしはかり

幾己遊以止滿之可良奴可佐之安良曾比可奈止左
きこゆいとましからぬかさしあらそひかなとさ

字く之宇於保勢止可也宇丹以止於利奈可良奴人者多
うくしうおほせとかやうにいとおりなからぬ人はた

人阿飛乃利太末部留耳徒、末礼天波可奈起御
人あひのりたまへるにつゝまれてはかなき御

以良部毛心也寸久幾己衣无毛滿者由之可之見
いらへも心やすきこえんもまはゆしかしみ

也春所八物遠於保之三多流、古登年比与利毛於保久
やす所は物をおほしみたるゝこと年比よりもおほく

【葵】 33

曾比丹介利川良幾可多丹思比波天給部止以万八
そひにけりつらきかたに思ひはて給へといまは

止天婦利波奈礼久多里給奈武八以登心保曾閑
とてふりはなれくたり給なむはいと心ほそか

里奴部久与楚乃人幾、毛人和良遍奈良无事
りぬへくよその人き、も人わらへならん事

止於保春佐利止天堂地登末流部久於毛本之奈
とおほすさりとてたちとまるへくおもほしな

類耳八可久已与奈幾左滿尔三那思飛久多寸
るにはかくよなきさまにみな思ひくたす

遍可女流毛也春可良寸川利春流安万乃宇計奈礼
へかめるもやすからすつりするあまのうけなれ

也止於起不之於本之王川良婦氣尔也御心知毛
やとおきふしおほしわつらふけにや御心ちも

宇起多留屋宇丹於保佐連帝奈也末之宇久天
うきたるやうにおほされてなやましくくて

給大將殿尔八久多利多万八武己止越毛天波奈礼天安
給大將殿にはくたりたまはむことをもてはなれてあ

【葵】 34

類末之支事奈止毛佐万太遣起己衣給者寸可春
るましき事なともさまたけきこえ給はずかす

奈良奴身遠美万宇久於本之春天无毛古登者里
ならぬ身をみまうくおほしすてんもことほり

奈連止以未波猶以不可比奈幾丹天毛御覽之
なれといまは猶いふかひなきにても御覽し

波帝无也阿左可良奴丹八安良無止幾己盈可、川良
はてんやあさからぬにはあらむときこえか、つら

比太末遍者佐多女可年給部留御心毛也奈久左武登
ひたまへはさためかね給へる御心もやなくさむと

多地出多末部里之見曾起河乃安良可利之瀬尔
たち出たまへりしみそき河のあらかりし瀬に

以止、与呂徒以止宇久於本之入多利大殿仁盤
いと、よろついとくおほし入たり大殿には

御物乃希女起天以多久和川良飛堂末部八誰毛く
御物のけめきていたくわつらひたまへは誰もく

於本之嘆久丹御安利幾奈止飛无奈幾古呂奈礼半
おほし嘆くに御ありきなとひんなきころなれば

【葵】 35

二条乃院毛時く曾和多里給左八以部止屋无己止奈
二条の院も時くそわたり給さはいへとやんことな

幾可多八古止丹思比幾己盈給部繁人農女川良
きかたはことに思ひきこえ給へる人のめつら

之起事佐遍曾飛多末部流御奈也見奈連者心
しき事さへそひたまへる御なやみなれは心

久類之宇於本之奈遣起帝御春本宇也奈尔也
くるしうおほしなけて御すほうやなにや

奈止我御方仁天於本不於己奈波世太末不物乃
なと我御方にておほふおこなはせたまふ物の

氣以幾寸玉奈止以婦物於保久出幾天左滿く
けいきす玉などいふ物おほく出きてさまく

乃奈能利寸留中丹人耳佐良尔宇川良春太、三川可良乃
のなのりする中に人にさらにうつらすた、みつからの

御身丹徒止曾比多流佐万丹天古止尔於止呂くく之宇
御身につとそひたるさまにてことおとろくしう

王川良八之幾己由累事毛奈介礼止又可太時者奈流、
わつらはしきこゆる事もなければ又かた時はなる、

【葵】 36

於利毛那幾物乃一安里以美之幾遣无左止毛丹毛志多
おりもなき物の一ありいみしきけんさともにもした

加者寸志宇祢幾氣色於本呂氣乃物丹安良寸止
かはすしうねき氣色おほろけの物にあらずと

見衣多里大将乃君能御加与比所古、加之己止於
見えたり大将の君の御かよひ所こ、かしことお

本之阿津留丹此宮春所二条乃君那止波可利曾八
ほしあつるに此宮す所二条の君などはかりそは

遠之奈部天乃左滿丹八於本之多良佐女礼者恨
をしなへてのさまにはおほしたらさめれば恨

乃心毛不可良流良女登佐、女起天物那止止波世給部止左
の心もふからるらめとさ、めきて物などとはせ給へとさ

志天幾古盈安徒留事毛奈之毛能、氣止天毛
してきこえあつる事もなしもの、けども

和左止婦可幾御可多起登幾己由留毛那之過仁
わさとふかき御かたきときこゆるもなし過に

計留御女能止多川人毛之八於也乃御方丹川氣川、
ける御めのとたつ人もしはおやの御方につつ、

【葵】 37

川多和利多類物乃与者女丹以天幾多流奈登
つたわりたる物のよはめにいてきたるなど

武年く可良須曾見多礼安良波留、堂、津久く止
むねくからずそみたれあらはるゝたゝつくくにと

祢遠乃三奈起給天於利く八武年遠世幾安介川、
ねをのみなき給ておりくはむねをせきあげつゝ

以美之久多部可多遣仁滿止宇和左遠志多末部半以
いみしうたへかたけにまとうわさをしたまへはい

可耳遠者須部幾丹可止由、之字可那之宇
かにをはずへきにかとゆゝしうかなしう

於本之安波天多里院与利毛御止婦良飛
おほしあはてたり院よりも御とふらひ

比万奈久御祈乃事末天於本之与良世給左
ひまなく御祈の事までおほしよらせ給さ

滿能可多之希奈幾仁川氣天毛以止、於之遣
まのかたしけなきにつけてもいと、おしけ

奈類人乃御身也世中安万祢久於之美幾己
なる人の御身也世中あまねくおしきこ

【葵】 38

由留越幾、給丹毛見也寸所八太、奈良須於保左留
ゆるをき、給にもみやす所はた、ならずおほさる

止之古路盤以止、閑久之毛安良佐利之御
としころはいと、かくしもあらざりし御

以止見心越者可那加利之止己呂乃車阿良曾比丹人
いとみ心をはかなかりしところの車あらそひに人

乃御心乃宇己起尔計留遠可能殿尔八左末天毛於
の御心のうごきにけるをかの殿にはさまでもお

本之与良佐利遣里可、類御物思比乃美多礼
ほしよらざりけりかゝる御物思ひのみたれ

耳御心知毛奈越連以奈良須乃三於保左流
に御心ちもなをれいならすのみおほさる

礼者保可丹和多里太末比天御寸本字奈止世左勢
れはほかにわたりたまひて御すほうなどせさせ

給大将殿幾、給天以可奈留御心地丹可止以登
給大将殿き、給ていかなる御心地にかといと

遠之宇於本之於己之伝王太利堂滿部里連以
をしようおほしおこしてわたりたまへりれい

【葵】 39

奈良奴多比所奈礼半以多宇忍比給心与利本可
ならぬたひ所なれはいたう忍ひ給心よりほか

奈留於己多利奈止川美由留佐連奴部久幾古盈
なるおこたりなとつみゆるされぬへくきこえ

川、氣給天奈也三給人乃御安利佐万毛宇礼部
つ、け給てなやみ給人の御ありさまもうれへ

幾己衣太末不身川可良八佐之毛思比人侍良称
きこえたまふ身つからはさしも思ひ人侍らね

止於也堂知能以止古登く之宇於毛飛滿登
とおやたちのいとことくしうおもひまと

波留、可心久流之佐尔可、流保止遠見寸久左无
はる、か心くるしさにかゝるほとを見すくさん

止天奈無与呂徒遠於本之乃止女多留御
とてなむよろつをおほしのとめたる御

心奈良波以止宇礼之宇奈無止可多良幾古衣
心ならはいとうれしうなむとかたらひきこえ

多末不川年与利毛心久類之氣奈留御遣之
たまふつねよりも心くるしけなる御けし

【葵】 40

幾遠古登和利丹安者礼耳見多末末川良世
きをことわりにあはれに見たてまつらせ

給宇地止計奴朝本良希仁出給不御佐万乃於可之幾
給うちとけぬ朝ほらけに出給ふ御さまのおかしき

尔毛猶不利者奈礼奈武事八於本之可部左累也武
にも猶ふりはなれなむ事はおほしかへさるやむ

己止奈幾可多丹以登、心佐之曾比太万不部幾
ことなきかたにいと、心さしそひたまふへき

事毛以天起丹多礼者飛止川可多丹於本之
事もいてきにたればひとつかたにおほし

之徒末利堂末比奈无遠可屋宇仁待幾己盈
しつまりたまひなんをかやうに待きこえ

川、安良武毛心乃美川支奴部幾事中く物思比
つ、あらむも心のみつきぬへき事中く物思ひ

乃於止呂加左流、心知之給耳文八可利曾暮
のおとろかさる、心ちし給に文はかりそ暮

徒可多安類寸己之於己多利左滿奈利徒留心
つかたあるすこしおこたりさまなりつる心

【葵】 41

地乃仁者可尔以止以多字久留之氣仁侍留越
地のはかにいといたうくるしけに侍るを

衣日起与可天奈登安留遠礼以乃事川氣止美
えひきよかてなどあるをれいの事つけとみ

給物可良
給物から

袖奴留、恋路止加徒八志里那可良於利多川多
袖ぬる、恋路とかつはしりなからおりたつた

己乃美川可良楚宇起山乃井乃水毛古登八利丹止曾
このみつからそうき山の井の水もことほりにとそ

安留御手八奈越古、良乃人乃中仁寸久礼多里加
ある御手はなをこゝらの人の中にすくれたりか

之登美給比津、以可丹曾也毛安流世可奈心毛
しとみ給ひつゝいかにそやもある世かな心も

加多地毛止利く丹寸川部幾毛奈久又思比左太
かたちもとりにすつへくもなく又思ひさた

武部幾毛奈起遠久類之宇於保佐留御返以止久良宇
むへきもなきをくるしうおほさる御返いとくらう

【葵】 42

成丹多礼止袖乃三奴留、也以可耳不可、羅奴御
成にたれと袖のみぬる、やいかにふかゝらぬ御

事仁奈武
事になむ

安左美丹也人盤於利多川我可多八身毛曾保川末天
あさみにや人はおりたつ我かたは身もそほつまで

婦可幾恋路遠於保呂遣尔天也此御返遠三川可良
ふかき恋路をおほろけにてや此御返をみつから

幾古衣左勢奴奈止安利大殿尔八御物乃氣以多宇
きこえさせぬなどあり大殿には御物のけいたう

於己里以見之宇和川良比給己乃於保武以幾寸玉
おこりいみしうわつらひ給このおほいさす玉

古知、於止、乃里也宇奈登以不物安利止幾、太末婦
こち、おと、のりやうなといふ物ありとき、たまふ

耳川希天於本之津、久連者身飛止川乃宇起
につけておほしつゝくれは身ひとつのうき

奈遣起与利本可耳人遠安之可礼奈止思不心毛
なげきよりほかに人をあしかれなと思ふ心も

【葵】 43

奈計連止物思不丹安久可流奈留玉之為八佐毛也
なけれと物思ひにあくかるなる玉しぬはさもや

安良武止於本之志良累、事阿里止之比与呂津尔
あらむとおほししらるゝ事ありとし比よろつに

於毛比乃己春事那久寸久之川礼止加宇之毛久多遣
おもひのこす事なくすくしつれとかうしもくたけ

奴遠波可奈幾古止乃於利尔人農思氣知奈幾物
ぬをはかなきことのおりに人の思けちなき物

丹毛帝奈寸左滿奈利之御禊乃、知一婦之
にもてなすさまなりし御禊の、ち一ふし

丹於本之字可礼尔之心志川末里加多久於本左留
におほしうかれにし心しつまりかたくおほさる

希尔也寸己之宇地未止呂三多末不夢耳盤
けにやすこしうちまところみたまふ夢には

彼姬君止於保之幾人乃以止幾与良仁天安流
彼姬君とおほしき人のいときよらにてある

所尔行天登可久比幾滿左久利宇川、丹毛仁春太
所に行てとかくひきまさくりうつゝ、にもにすた

【葵】 44

遣久以可幾比多婦累心以天幾天宇地可那久類奈止
けいにかきひたふる心いてきてうちかなくなるなど

美盈太末不事多比加左奈利丹介利安奈心宇也氣
みえたまふ事たひかさなりにけりあな心うやけ

丹身遠寸天、也以耳介武止宇川之心奈良須覺
に身をすてゝやいにけむとうつし心ならず覺

給於利く毛安礼八佐良奴事堂仁人乃御多女尔八
給おりくもあれはさらぬ事たに人の御ためには

与左滿能事遠之毛以比出奴世奈礼半滿之天己礼盤
よさまの事をしもいひ出ぬ世なればましてこれは

以登与久以飛奈之津部幾太与利也止於保春仁以
いとよきいひなしつへきたより也とおほすにい

止奈多多之字飛多寸良世耳奈久成天後尔恨
となたたしうひたすら世になく成て後に恨

乃己寸八世能川年乃事也曾礼多尔人乃宇部尔天八徒三
のこすは世のつねの事也それたに人のうへにてはつみ

不可久遊、之幾遠宇川、乃和可身奈可良佐留宇止滿
ふかくゆゝしきをうつゝのわか身なからさるうとま

【葵】 45

志幾事遠以比川希良流、寸久世乃宇起事春
しき事をいひつけらるゝ、すぐせのうき事す

遍天川礼奈幾人丹以可天心毛可計幾古衣之止於保
へてつれなき人にかて心もかけきこえしとおほ

之返世登於毛不毛物遠奈利左以宮八己曾宇地尔
し返せとおもふも物をなりさい宮はこそうちに

以里給部加利之遠佐万、左波累事安利伝己
いり給へかりしをさまゝさはる事ありてこ

乃秋以利給九月尔八也可天野乃宮尔宇川呂比
の秋いり給九月にはやかて野の宮にうつるひ

給部介礼八婦多、比乃御波良部乃以曾起登利加左年天
給へければふたゝひの御はらへのいそきとりかかねて

安流部幾耳太、安也之久本希、志宇天徒久、
あるへきにたゝあやしくほけく、しうてつくゝ

止婦之奈也三多末不遠宮人以美之幾太以之
とふしなやみたまふを宮人いみしきたいし

丹天御以能利奈止左満、川可宇末川連流遠止呂、
にて御いのりなとさまゝつかうまつれるをとろゝ

【葵】 46

之幾左満尔八安良寿曾己波可登奈久伝月日
しきさまにはあらずそこはかとなくて月日

遠寸久之給大将殿毛川年耳止婦良飛幾己衣
をすくし給大将殿もつねにとふらひきこえ

太末部止万佐留可多乃以堂宇和川良比給部半御
たまへとまさるかたのいたうわつらひ給へは御

心乃以止満奈計也末多佐留部幾本止丹毛安良春
心のいとまなげ也またさるへきほとにもあらず

登美那人毛太由三多末部累耳仁者可尔御氣
とみな人もたゆみたまへるにはかに御氣

色安利天奈也三堂末部八以止、之起御祈可寸遠
色ありてなやみたまへはいとゝしき御祈かすを

津久之帝世左勢給部連止礼以乃志宇祢幾御物
つくしてせさせ給へれとれいのしうねき御物

乃希一佐良丹宇己可寸也武己止奈幾氣武左登毛
のけ一さらになうこかすやむことなきむむさと

女川良可奈利止毛天奈也武佐春閑耳以見之宇
めつらかなりともてなやむさすかにいみしう

【葵】 47

天宇世良連天心久類之遣仁奈起王比天寸己之
てうせられて心くるしげになきわひてすこし

遊留部多末部也大耳幾己由部幾古登安里止
ゆるへたまへや大将にきこゆへきことありと

乃太末不佐連八与安流也宇阿良无止天地可幾御木
のたまふされはよあるやうあらむとてちかき御木

帳乃毛止丹入多天満川利堂里計耳加幾利能左
帳のもとに入たてまつりたりけにかきりのさ

満耳物之給遠幾古盈遠可満本之幾事毛於
まに物し給をきこえをかまほしき事もお

波寸留尔也止天於止、毛宮毛春古之志曾起堂
はするにやとておと、も宮もすこししそきた

末部里加知乃僧止毛己惠志川女天法花経遠与
まへりかちの僧ともこゑしつめて法花経をよ

美多留以三之久太宇止之御木丁乃可多飛良比
みたるいみしくたうとし御木丁のかたひらひ

幾安希天見堂天末川利太末部八以登於可之遣
きあけて見たてまつりたまへはいとおかしけ

【葵】 48

仁天御者良八以美之宇太可久帝婦之末多部累佐
にて御はらはいみしうたかくてふしたまへるさ

満与楚人太耳見多天末川良无丹心三多礼奴遍之
まよそ人たに見たてまつらむに心みたれぬへし

末之伝於之字可那之宇於保春古止波利奈利
ましておしうかなしうおほすことわりなり

志路幾御曾丹色安比以止花屋可丹天御久之乃
しろき御そに色あひいと花やかにて御くしの

以止奈可宇古地多幾遠引遊比天宇知曾遍多
いとなかうこちたきを引ゆひてうちそへた

類毛加宇天己曾羅宇太希丹奈満女起多留加太
るもかうてこそらうたけになまめきたるかた

曾比天於可之可里介利止美由御手越止良遍天安奈
そひておかしかりけりとみゆ御手をとらへてあな

以美之心宇起女越見世給可那止天毛物毛幾古盈給
いみし心うきめをみせ給かなとても物もきこえ給

波春奈起多末部八連以八以登王川良八之久波川可之氣
はずなきたまへははいはいとわつらはしくはつかしけ

【葵】 49

奈累御末美遠以止太由希仁見安遣天宇地滿毛里
なる御まみをいとたゆげに見あけてうちまもり

幾古衣給耳涙乃己保留、左滿遠見堂末不八以可、
きこえ給に涙のこぼるゝさまを見たまふはいかゝ

阿者礼乃浅可良武安未里以多久奈幾太末部八心久類之幾
あはれの浅からむあまりいたくなきたまへは心くるしき

於也多地能御事遠於保之又加久見給尔川希天久
おやたちの御事をおほし又かく見給につけてく

地於之久於本之給尔也止於本之天何事毛以止可宇
ちおしくおほし給にやとおほして何事もいとかう

奈於保之入曾佐利止毛氣之宇八於者世之以可奈里
なおほし入そざりともけしうはおほせしいかなり

止毛加奈良春安不瀬安奈礼八多以女武盤安利奈无
ともかならずあふ瀬あなれはたひむむはありなん

於止、宮奈止毛婦可幾地幾利安流中八女久里天
おとゝ宮などもふかきちきりある中はめぐりて

毛太盈左奈礼者阿比美留本登安利奈武止於保世止
もたえさなれはあひみるほどありなむとおほせと

【葵】 50

奈久佐女給耳以天安良春也身乃宇部乃以止久流之幾
なくさめ給にいてあらずや身のうへのいとくるしき

遠志波之也寸女太末部止幾己衣无止天奈武閑久
をしはしやすめたまへときえんとてなむかく

末以利古无止毛佐良丹思者奴遠物思入農玉之為
まいりこんともさらに思はぬを物思人の玉しぬ

八氣耳安久可流、物丹奈武安里計留止奈川可之遣
はけにあくかるゝ物になむありけるとなつかしけ

丹以比天
にいひて

奈計幾和比空丹三多流、和可玉遠武寸比止、
なけきわひ空にみたるゝわか玉をむすひとゝ

免与志多可比乃徒万止乃太末不己惠氣者比曾乃
めよしたかひのつまとのたまふこゑけはひその

人尔毛安良春可者里給部里以登安也之止於本之女
人にもあらずかはり給へりいとあやしとおほしめ

久良寸丹多、加乃宮春所奈利介利登安左滿之久
くらすにたゝかの宮す所なりけりとあさましく

【葵】 51

人乃止可久以婦遠与加良奴物止毛乃以飛出類事毛
人のとかくいふをよからぬ物とものいひ出る事も

聞丹久、於本之天乃給比氣川遠女丹美春く、世尔八
聞にく、おほしての給ひけつをめにみすく、世には

可、流事己曾安里介礼登宇止満之字成奴安奈心宇
かゝる事こそありけれとうとましう成ぬあな心う

止於保左礼天加久乃給部止誰登己曾志良祢多之可丹
とおほされてかくの給へと誰とこそしらねたしかに

能多末部止乃給部半太、曾礼奈累御安利左満耳安左
のたまへとの給へはた、それなる御ありさまにあさ

末之止八世能川祢也人く、地可宇末以累毛加多波良以
ましとは世のつね也人く、ちかうまいるもかたはらい

太宇於保佐留寸己之御己惠毛志川末利太末部礼者
たうおほさるすこし御こゑもしつまりたまへれば

飛万於者寸留仁也止天宮乃御由毛天与世多末部留
ひまおはするにやとて宮の御ゆもてよせたまへる

耳加幾於己左礼多末比天本止奈久武末礼給奴
にかきおこされたまひてほとなくむまれ給ぬ

【葵】 52

宇礼之止於保春事加幾里奈起尔人耳加利宇川之
うれしとおほす事かきりなきに人にかりうつし

太末部累御物乃氣止毛祢多可利満止不遣者比以止
たまへる御物のけともねたかりまどふけはひいと

物佐者加之久天乃知能事万太以登心毛奈之以婦
物さはかしくてのちの事またいと心もなしいふ

加幾里奈幾願止毛堂天左世太末不遣尔也太以良
かきりなき願ともたてさせたまふけにやたいら

可丹事奈里波天奴連八山乃座主奈仁久礼也武
かに事なりはてぬれば山の座主なにくれやむ

古登奈幾僧止毛志多利可保尔安世於之乃己比川、
ことなき僧ともしたりかほにあせおしのこひつ、

以曾幾満可天奴於保久乃乃心越徒久之川留日比
いそきまかてぬおほくの人の心をつくしつる日比

乃名残春己之宇地也寸三天今八佐利止毛止於保春
の名残すこしうちやすみて今はさりともとおほす

御寸本宇奈止八又く、波之女曾部左勢給徒、末川八遣宇
御すほうなどは又くはしめそへさせ給つ、まつはけう

【葵】 53

安利女川良之幾御閑之徒幾丹皆人由留部里院
ありめつらしき御かしつきに皆人ゆるへり院

遠八之女多末末川利天見己多地上達部乃己流奈幾
をはしめたてまつりてみこたち上達部のこるなき

宇不屋之奈比止毛能免川良可丹以可女之幾遠夜毎
うふやしなひとものめつらかにいかめしきを夜毎

丹見乃、志類於止己仁天佐部於者寸礼八曾乃保止乃
に見の、しるおとこにてさへおはすればそのほどの

左保宇尔幾八、志久女天堂之彼宮寸所八可、類
さほうにきは、しくめてたし彼宮す所はかゝる

御安里様遠幾、給天毛太、奈良寸可年天八以登安
御あり様をき、給てもたゝならずかねてはいとあ

也宇久幾古衣之遠多以良可丹毛波多止宇地於本之
やうくきこえしをたいらかにもはたとうちおほし

介利安也之久我尔毛安良奴御心知遠於保之徒、
けりあやく我にもあらぬ御心ちをおほしつゝ、

久流耳御曾奈止毛太、氣之乃香耳之見
くるに御そなともたゝけしの香にしみ

【葵】 54

加遍利多累阿屋之佐耳御遊寸留乃以里御曾
かへりたるあやしさに御ゆるまいる御ぞ

幾可部奈止之給天心見多末部止猶於那之屋宇丹
きかへなとし給て心みたまへと猶おなしやうに

乃三安礼八和可身奈可良太耳宇止満之宇於保佐流、
のみあれはわが身なからたにうとましようおほさるゝ、

仁末之天人乃以比御毛八无事奈止人丹乃給部幾
にまして人のいひおもはん事など人にの給へき

事奈良祿八心飛止川耳於保之嘆久尔以止、御心
事ならぬは心ひとつにおほし嘆くにいと、御心

加波利毛満佐里行大将殿八心知寸己之乃給天
かはりもまさりゆ大将殿は心ちすこしの給て

安左満之加利之本止乃止八寸加多利毛古、路宇久
あさましかりしほどのとはすかたりもこゝろうく

於本之波良礼川、以登程部耳計留毛心久流之久
おほしはられつゝ、いと程へにけるも心くるしく

又希知加久帝見多末末川良武尔八以可丹曾也宇多天
又けちかくて見たてまつらむにはいかにそやうたて

【葵】 55

於保遊部幾遠人乃御為以止保之久於本之御文
おほゆへきを人の御為いとほしくおほし御文

八可利楚有計留以太宇和川良比給之人乃御名残
はかりそ有けるいたうわつらひ給し人の御名残

遊、之具心由留比奈計耳誰毛於保之多連八古止
ゆ、しく心ゆるひなけに誰もおほしたればこと

波里丹天御安利幾毛那之奈本以止奈也末之氣
はりにて御ありきもなしなほいとなやましけ

耳乃三之給部盤礼以乃左満尔天毛末多、
にのみしたへはれいのさまにてもまた、

以女武之多末八寸和可君乃以止由、之幾満天美衣
いめむし給まはすわか君のいとゆ、しきまでみえ

太末不御安利佐万遠今可良以登左満己止丹毛天
たまふ御ありさまを今からいとさまことにもて

閑之川幾幾古盈多末婦左満於呂可奈良須事
かしつききこえたまふさまおろかならず事

安比多留心地之天於止、毛以止字礼之字以美之登
あひたる心地しておと、もいとうれしいみしと

【葵】 56

思比機古盈太末部留耳多、此御心知遠己太
思ひきこえたまへるにた、此御心ちをこた

里波天左世多万八奴遠心毛止奈久於保世止毛佐者
りはてさせたまはぬを心もたなくおほせともさは

加利以見之可里之名残耳己曾波止於本之伝
かりいみしかりし名残にこそはとおほして

以可天可八佐能三盤御心遠毛満止八之太万八武
いかてかはさのみは御心をもまとはしたまはむ

和可君乃御末美乃宇川久之左奈止乃春宮丹
わか君の御まみのうつくしさなどの春宮に

以見之宇似多天末川利給部累遠美多天末川里
いみしう似たてまつり給へるをみたてまつり

多末比天毛末川恋之宇思出良連左世給耳志
たまひてもまつ恋しう思出られさせ給にし

乃比加多宇天満以里堂万八武止天内奈止尔毛
のひかたうてまいりたまはむとて内などにも

阿末利久之久万以利待良祢半以不世起耳
あまり久しくまいり侍らねはいふせきに

【葵】 57

介婦奈无字為多知之侍留越寸古之希地可幾
けふなんうぬたちし侍るをすこしけちかき

保止丹天幾古盈左世波也安末利於保川可奈幾
ほとにてきこえさせはやあまりおほつかなき

御心乃遍多天可奈止宇良美幾己衣給部連八遣仁多、
御心のへたてかなとくらみきこえ給へればけにた、

飛止部耳衣武丹乃三安流部幾御仲尔毛安良奴
ひとへにえむにのみあるへき御仲にもあらぬ

遠以堂宇於止呂部多万遍利止以比奈可良物己之
をいたうおとろへたまへりといひなから物こし

仁天奈登安流部幾可八止天婦乃多末部留所丹
にてなどあるへきかはとてふしたまへる所に

於末乃地可宇末以利多礼八以利天物奈止幾己衣
おましちかうまいりたればいりて物なときこえ

堂末不御以良遍時く幾古盈給毛猶以止与波希
たまふ御いらへ時くきこえ給も猶いとよはけ

奈利左礼止武氣耳奈起入止思比幾己衣之
なりされとむけになき人と思ひきこえし

【葵】 58

御安利左滿遠於保之以川連八夢乃心知之天遊、之
御ありさまをおほしいつれば夢の心ちしてゆ、し

加利之程乃事奈登幾古衣太末婦津為天丹毛
かりし程の事なときこえたまふつゐてにも

彼武遣耳以幾毛多盈太累屋宇丹於者世之
彼むけにいきもたえたるやうにおほせし

可引返之川婦く止乃給比之事止毛於本之
か引返しつふくとの給ひし事ともおほし

出流尔古、路宇介礼半以左也幾己衣滿本之幾
出るにこゝろうければいさやきこえまほしき

事以止於保加連止末多以登太由氣尔於保之
事いとおほかれとまたいとたゆけにおほし

太女礼者己曾止天御遊万以連奈止佐部安川可比
ためればこそとて御ゆまいれなとさへあつかひ

幾己盈給不遠以川奈良飛給介无登人く阿者礼
きこえ給ふをいつならひ給けんと人くあはれ

可利幾古由以止於可之遣奈流人乃以多宇与
かりきこゆいとおかしけなる人のいたうよ

【葵】 59

波里曾己奈八礼天安流可奈起可能氣色仁天婦之
はりそこなはれてあるかなきかの氣色にてふし

太末部流佐万以登羅宇太希耳心久類之氣也
たまへるさまいとらうたけに心くるしけ也

御久之乃三多礼多留寸地毛奈久波良く登
御くしのみたれたるすちもなくはらくと

可、礼流枕乃保止安利加多幾満天見由連者
かゝれる枕のほとありかたきまで見ゆれば

年比何事遠安可奴古登安利帝於毛比川良无
年比何事をあかぬことありておもひつらん

止安屋之幾末天宇地末毛良礼給院奈止仁
とあやしきまでうちまもられ給院などに

満以利天以止、曾満可天奈武可也宇丹天於保川可
まいりていと、そまかてなむかやうにておほつか

奈可良寸美多天末川良平以止宇礼之可留部幾遠
なからすみたてまつらはいとうれしかるへきを

宮乃川止於者春流尔心知奈久也止徒、三天寸
宮のつとおはするに心ちなくやとつ、みてす

【葵】 60

久之徒留毛久流之幾遠奈越屋宇く、心徒与久於
くしつるもくるしきをなやうく、心つよくお

本之奈之天連以乃御末之所丹己曾安末里
ほしなしてれいの御まし所にこそあまり

和可久毛天奈之給部者加多遍八閑久物之
わかくもてなし給へはかたへはかく物し

太末不楚奈止幾己衣遠幾給天以止幾与良仁
たまふそなときこえをき給ていときよらに

宇地佐宇曾起天出太末婦遠川年与利八免登、
うちさうそきて出たまふをつねよりはめと、

女天美以多之天布之給部利秋乃川可左女之安留
めてみいたしてふし給へり秋のつかさめしある

部幾佐多女（尔）帝大以殿毛万以利給部八君達毛
へきさため（に）て大い殿もまいり給へは君達も

以多波利乃曾美給事止毛有天殿乃御安
いたはりのそみ給事とも有て殿の御あ

多利波奈礼堂万子者三那飛幾川、幾以天
たりはなれたまねはみなひきつ、きいて

【葵】61

太末比奴殿乃宇地人寸久那耳志女也可奈留本
たまひぬ殿のうち人すくなにしめやかなるほ

止耳仁者可尔礼以乃御武年遠世幾阿遣天
とにはかにれいの御むねをせきあげて

以登以多宇滿止比給内丹御世宇曾己幾古盈太
いといたうまとひ給内に御せうそこきこえた

末婦本止毛奈久堂衣入給奴安之遠空丹天多
まふほともなくたえ入給ぬあしを空にてた

連毛く満可天給奴連平除目能夜奈利遣礼止
れもくまかて給ぬれば除目の夜なりけれど

加久和利奈幾御佐者利奈礼半三那事也婦連
かくわりなき御さはりなればみな事やふれ

多流也宇也乃志利佐者久保止夜奈可波可利那
たるやう也のしりさはくほと夜なかはかりな

礼者山乃座主奈尔久礼乃曾宇多地毛衣佐宇之
れは山の座主にくれのそうちもえさうし

安遍太万波春以滿左利止毛登思比多由三太
あへたまはすいまさりともし思ひたゆみた

【葵】62

里津留耳安左滿之介礼半殿乃宇地能人物
りつるにあさましければ殿のうちの人物

尔楚安多里滿止不所く乃御止婦良飛乃使奈止
にそあたりまとふ所くの御とふらひの使など

立己見多礼止衣幾古盈徒可寸遊寸利美知天
立こみたれとえきこえつかすゆすりみちて

以見之幾御心末止比止毛以登於曾呂之幾末天
いみしき御心まとひともいとおそろしきまで

三盈太末不御物乃氣能多比多飛止利入多帝
みえたまふ御物のけのたひたひとり入たて

末川利之遠於保之伝御枕奈止毛佐奈可良一
まつりしをおほして御枕などもさなから一

三日見堂天末川利給部止也宇く可波利給事止毛
三日見たてまつり給へとやうくかはり給事とも

乃安礼半可幾里登於保之者川留本止丹多礼毛く
のあれはかきりとおほしはつるほとにたれもく

以登以三之大將殿八可奈之幾己止尔事遠曾遍
いといみし大將殿はかなしきことに事をそへ

【葵】 63

天世能奈可遠以止宇起物耳於本之志美奴連入
て世のなかをいとうき物におほししみぬれば

多、奈良奴御安多里乃御止婦良飛止毛、心宇之止
た、ならぬ御あたりの御とふらひと、心うしと

乃三楚奈部天於保左類、院耳於本之奈氣起登
のみそなへておほさるゝ院におほしなげきと

不良比幾古盈左世給左滿可部利天於毛太、之遣
ふらひきこえさせ給さまかへりておもたゝしけ

奈留越宇礼之幾勢毛末之里天於止、盤御涙
なるをうれしき勢もましりておとゝは御涙

乃以止滿奈之人乃申丹志多可比帝以可女之幾事
のいとまなし人の申にしたかひていかめしき事

止毛越以幾也返給止佐万く仁乃己流事奈久
ともをいきや返給とさまくゝにのこる事なく

可川曾己奈者礼太末不事止毛乃安累遠美留く毛
かつそこなはれたまふ事とものあるをみるくも

川幾世春於本之滿止部止可比奈久天日比尔奈
つきせずおほしまとへとかひなくて日比にな

【葵】 64

連半以可、八世无止天鳥部野耳為天多末川留
れはいかゝはせんとして鳥へ野にゐてたてまつる

本登以美之遣奈留事於保可里己奈多可那堂
ほといみしけなる事おほかりこなたかなた

乃御遠久利乃人止毛寺く乃念仏乃僧奈止
の御をくりの人とも寺くゝの念仏の僧なと

楚古良飛呂幾野丹止己呂毛那之院遠者
そこらひろき野にとこもなし院をは

佐良丹毛申左寸幾左以乃宮春宮奈止乃御使
さらにも申さすきさいの宮春宮などの御使

左良奴所く乃毛万以地利可比天安可寸以美之幾
さらぬ所くゝのもまいりちかひてあかすいみしき

御止婦良比遠幾己衣給於止、八盈多地安可里
御とふらひをきこえ給おとゝはえたちあかり

太万波春可、流与八比乃寸衛耳和可久佐利乃
たまはすかゝるよはひのすゑにわかさかりの

遠久礼堂帝末川利天毛己与婦事止波知奈幾
をくれたてまつりてもこよふ事とはちなき

【葵】 65

多末不遠古、羅乃人可奈之久見多天末川留夜毛
たまふをこゝらの人かなしく見たてまつる夜も

寸可良以美之久能、志類幾之幾奈礼止以止毛波可
すからいみしくのゝしるきしきなれといともはか

奈幾御可者年八可利越御名残尔天安可月婦可久
なき御かはねはかりを御名残にてあか月ふかく

可遍利給川祢乃事奈礼登人飛止里可阿末多志毛
かへり給つねの事なれと人ひとりかあまたしも

見給八奴事奈礼者(尔)也太久比奈久於保之己可礼多里
見給はぬ事なれは(に)やたくひなくおほしこかれたり

八月廿日与日乃有明奈連八空乃遣之幾毛安
八月廿日よ日の有明なれは空のけしきもあ

者礼寸久那可良奴丹於止、乃屋三尔久礼滿止比
はれすくなからぬにおとゝのやみにくれまどひ

給部累左滿遠見堂末婦毛古登八利仁以三之遣
給へるさまを見たまふもことほりにいみしけ

連者空乃三奈可女良礼給天
れは空のみなかめられ給て

【葵】 66

乃本利奴留煙八曾礼止和可年止毛奈遍天雲為乃
のほりぬる煙はそれとわかねともなへて雲ぬの

安者礼成可奈殿耳於八之徒幾天露未止呂
あはれ成かな殿におはしつきて露まどろ

滿連給八春年比乃御安里左滿遠於本之以帝
まれ給はず年比の御ありさまをおほしいて

津、奈止天徒井丹八於乃川可良見奈越之太末比
つゝなとてつぬにはおのつから見なをしたまひ

天武止乃登可耳思天奈越左利乃寸末井丹徒
てむとのとかに思てなをさりのすまゐにつ

氣天毛徒良之止寛良礼多天末川利遣武与越遍天
けてもつらしと覺られたてまつりけむよをへて

宇止久波川可之幾物丹思天過波天太末比奴留
うとくはつかしき物に思て過はてたまひぬる

奈登久也之幾事於保久於本之川、希良累
なとくやしき事おほくおほしつゝけるる

連止加比奈之仁者女類御曾太帝末川連流毛
れとかひなしにはめる御そたてまつれるも

【葵】 67

夢乃心知之天我左起多、末之可八婦可久曾免
夢の心ちして我さきた、ましかはふかくそめ

給八満之止於保寿左部
給はましとおほすさへ

加幾里安礼半字春寸三衣安左介礼止奈美多曾
かきりあれはうすすみ衣あさけれとなみたそ

袖遠布地止奈之許累止天念寸之給部累佐
袖をふちとなしけるとて念すし給へるさ

万以止、奈満面可之左満左利天経忍日屋可丹
まいと、なまめかしさまさりて経忍ひやかに

与美給比川、法界三昧婦介无大之止宇地乃
よみ給ひつ、法界三昧ふけん大しとうちの

多末部累於己奈比奈礼多累法師与利八奈奈里
たまへるおこなひなれたる法師よりはけなり

和可君遠見多天末川利給毛奈尔、志乃不乃止以登、
わか君を見たてまつり給もなに、しのふのといと、

露遣、礼止可、類加多見佐部奈可良満之可八止於
露け、れとかゝるかたみさへなからましかはとお

大正大学本『源氏物語』翻刻（葵）

【葵】 68

本之奈久左武宮八曾乃末、仁於起阿可利給波春
ほしなくさむ宮はそのまゝにおきあかり給はず

安也宇希丹美衣給不遠又於保之佐者幾天御以
あやうけにみえ給ふを又おほしさはきて御い

能利奈止世左勢太松不波可那宇過遊氣八御和
のりなとせさせたまふはかなう過ゆけは御わ

左乃以曾幾奈登世左世給毛於保之加希左利之
さのいそきなどせさせ給もおほしかけさりし

事奈礼半川幾世寸以見之宇奈武奈能女耳
事なれはつきせすいみしうなむなのめに

可多保奈留越多耳人乃於也八以可、思女流末之天
かたほなるをたに人のおやはいか、思めるまして

古登八利也又太久比於者世奴遠堂仁佐宇く
ことほり也又たくひおはせぬをたにさうく

之久於本之徒留耳袖乃宇遍能玉久多
しくおほしつるに袖のうへの玉くた

氣多利介武与利毛安左末之氣奈利大將
けたりけむよりもあさましけなり大將

三五

【葵】69

君盤二条乃院耳多介安可良佐万丹毛和多里
君は二条の院にたにあからさまにもわたり

多万波春安者礼丹布可久於毛比奈介起天於己奈比
たまはずあはれにふかくおもひなげきておこなひ

遠満女耳志多末比川、安可之久良之給所く
をまめにしたまひつゝ、あかしくらし給所く

丹八文八可利楚多天末川利給可乃宮春所八齋
には文はかりそたてまつり給かの宮す所は齋

宮盤左衛門川可左丹入給耳遣礼八以登、以川
宮は左衛門つかさに入給にければいと、いつ

久之幾御幾与満八利仁事川希天幾己盈毛
くしき御きよまはりに事つけてきこも

加与比給者寸宇之登思志見尔之世毛奈部帝
かよひ給はすうしと思しみにし世もなへて

以止者之久成給天可、類本多之太耳曾盤
いとはしく成給てかゝるほたしたにそは

佐良末之加者称可八之幾左満尔毛奈利那万之
さらましかはねかはしきさまにもなりなまし

【葵】70

止於保寿耳八末川台乃姫君能左宇く志久天
とおほすにはまつ台の姫君のさうくしくて

物之給良武安利左満曾不止於保之屋良類、
物し給らむありさまそふとおほしやらるゝ

夜盤御帳乃宇地耳飛止里不之多末不耳
夜は御帳のうちにひとりふしたまふに

止乃并能人く八知可宇女久利天左婦良部登加多
とのぬの人くはちかうめぐりてさふらへとかた

八良左飛之宇天時之毛安礼止祢佐女可地
はらさひしうて時しもあれとねさめかち

奈流尔己惠寸久礼多留加幾里衣里佐不良八世
なるにごゑすくれたるかきりえりさふらはせ

給念仏乃安可月可多奈止忍比加多之不可幾
給念仏のあか月かたなど忍ひかたしふかき

秋乃安者礼万佐利行風乃音身丹之三計累
秋のあはれまさり行風の音身にしみける

可奈止奈良者奴御独年丹安可之加年多末部流
かなとならぬ御独ねにあかしかねたまへる

【葵】 71

安左本良氣乃霧多知和多礼累尔菊乃介之幾
あさほらけの霧たちわたれるに菊のけしき

者女流枝耳古起安越丹飛乃紙奈留文徒希天
はめる枝にこきあをにひの紙なる文つつけて

佐之遠幾天以丹尔利今女可之久毛止天見多
さしをきていにけり今めかしくもとて見た

末部半宮寸所乃御手也幾古衣奴保止八於本之
まへは宮す所の御手也きこえぬほとはおほし

志流良武也
しるらむや

人乃世遠阿者礼止幾久毛露遣起尔遠久流、
人の世をあはれとさくも露けきにをくる、

袖遠思己曾也連太、今乃空丹於毛比多末部阿末里
袖を思こそやれた、今の空におもひたまへあまり

天奈武登安里川年与利毛遊宇尔毛加幾堂末部累可那
てなむとありつねよりもゆうにもかきたまへるかな

登佐春加耳遠起可多久見給物可良川連奈乃御止婦良飛
とさすかにをきかたく見給物からつれなの御とふらひ

【葵】 72

也止心宇之佐利止天加幾多衣遠止那宇幾古衣佐良武
やと心うしさりとてかきたえをとなくきこえさらむ

毛以止越之宇人乃御名乃久地奴部幾事遠於本之
もいとをしう人の御名のくちぬへき事をおほし

美多留過丹之入盤止天毛閑久天毛佐留部幾仁己曾八
みたる過にし人はとてもかくてもさるへきにこそは

物之給氣女奈丹、左流事遠佐多く、止計左也可丹
物し給けめなに、さる事をさたくとけさやかに

見聞介武登久也之幾八和可心奈可良猶衣於保之
見聞けむとくやしきはわか心ながら猶えおほし

奈越春末之幾奈女利可之齋宮の御幾与満八
なをすましきなめりかし齋宮の御きよまは

里毛和川良者志宇也奈止飛左之久思日川良比
りもわつらはしうやなとひさしく思ひわつらひ

末末部止王佐止安類御返奈久八奈佐氣奈久也
たまへとわざとある御返なくはなさけなくや

止天紫乃仁者女累紙耳己与奈久保止部侍
とて紫のにはめる紙にこよなくほとへ侍

【葵】 73

利耳計累遠思日多末部於己太良春奈可良津、万りにけるを思ひたまへおこたらすなからつゝ、ま

志幾本止八佐良者於保之志類良无止天奈武
しきほとはさらはおほししるらむとてなむ

登末流身毛消之毛於那之露乃世尔古、路
とまる身も消しもおなし露の世にこゝろ

遠久良武本止曾波可奈幾可川八於保之遣地天与加之
をくらむほとそはかなきかつはおほしけちてよかし

御覽世春毛也止天古礼丹毛止起古衣給部里佐止丹
御覽せすもやとてこれにもときこえ給へりさとに

於者寸留程奈利介礼半忍比天見多末比帝本能女
おはする程なりければ忍ひて見たまひてほのめ

可之給部累遣之幾遠心乃於丹、志流久美給天
かし給へるけしきを心のおに、しるくみ給て

佐連者と登於本春毛以見之猶以止加幾利奈幾
されはよとおほすもいみし猶いとかりなき

身乃宇左也介利加也宇奈流幾古盈有天院尔毛
身のうさ也けりかやうなるきこえ有て院にも

【葵】 74

以可丹於保左无古前坊乃於奈之幾御波良可羅登
いかにおほさんこ前坊のおなしき御はらからと

以婦中尔毛以美之久思可八之幾古盈太末比天
いふ中にもいみしく思かはしきこえたまひて

此齋宮乃御事遠毛念比耳幾己衣川希左世
此齋宮の御事をも念比にきこえつけさせ

給比之可八曾乃御加者利丹毛也可天見多天満川
給ひしかはその御かはりにもやかて見たてまつ

里安徒加者武奈止川年仁乃給者世天屋可天内
りあつかはむなとつねにの給はせてやかて内

寸見之堂末部止多比く、幾古盈左勢太末比之
すみしたまへとたひくきこえさせたまひし

遠多尔以登安流万之幾事止思者奈礼尔之
をたにいとあるましき事と思はなれにし

遠可久心与里本可丹和可く、之幾物於毛飛遠之天
をかく心よりほかにわかしくしき物おもひをして

津為耳宇起名遠佐部奈可之者天川部幾事登於本之
つぬにうき名をさへなかしはてつへき事とおほし

【葵】75

見多留、丹奈越連以乃左満尔毛於者世春佐留盤
みたる、になをれいのさまにもおはせすさるは

大可多乃世耳徒介天心丹久、与之安流幾己盈
大かたの世につけて心にく、よしあるきこえ

安里天武可之与里名太可久物之給部半野乃
ありてむかしより名たかく物し給へは野の

宮乃御宇川呂比乃本止丹毛於可之字今女起多留
宮の御うつろひのほとにもおかしう今めきたる

事於保久志那之天殿上入止毛毛己乃末之
事おほくしなして殿上人ともこのまし

幾奈止八安佐夕乃露和氣安利久曾能古路乃
きなとはあさ夕の露わけありくそのころの

也久丹奈武寸流止聞給天毛大將乃君八古登八利
やくになむすると聞給ても大將の君はことほり

楚可之遊部八安久末天川幾給比津留物遠毛
そかしゆへはあくまでつき給ひつる物をも

之世中丹阿幾波天、久多里多末比奈者
し世中にあきはて、くたりたまひなは

【葵】76

佐宇く、之眞毛安流遍幾可奈止佐春加耳於保
さうくしくもあるへきかなとさすかにおほ

左礼介利御法事奈止過奴連止正日末天八奈越
されけり御法事など過ぬれと正日まではなを

古毛里於者寸奈良波奴御川連く、遠心久流之可里
こもりおはずならはぬ御つれく、を心くるしかり

多末比天三位中将八川年丹万以利給津、世乃
たまひて三位中将はつねにまいり給つ、世の

中乃御物加多利奈止満女也可奈累遠毛又連
中の御物かたりなとまめやかなるをも又れ

以乃三多里加八之幾事遠毛幾己盈出川、奈久
いのみたりかはしき事をもきこえ出つ、なく

佐女幾古衣給丹加乃内侍曾宇地和良比久左尔八那
さめきこえ給にかの内侍そうちわらひくさにはな

類女流大將君八安奈以止於之也遠者於止、乃宇部
るめる大將君はあないとおしやははおと、のうへ

奈以多宇可呂女給曾止以左女多末不可良徒祢尔
ないたうかろめ給そといさめたまふ物かつねに

【葵】 77

於可之登於本之多里彼以左与井乃左也可奈良左利之
おかしとおほしたり彼いさよぬのさやかならざりし

秋乃事奈止佐良奴毛左滿く乃事止毛越加多美丹
秋の事なとさらぬもさまくの事ともをかたみに

久滿奈久以飛安良八之給天波天く盤安者礼奈留
くまなくいひあらはし給てはてくはあはれなる

世遠以比く伝宇地奈幾奈止之多末比介利時雨宇
世をいひくてうちなきなとしたまひけり時雨う

地之天物安者礼奈流暮徒可多中将君丹飛色
ちして物あはれなる暮つかた中将君にひ色

乃佐之奴幾宇寸良加耳衣可遍之天以登於、
のさしぬきうすらかに衣かへしていとお、

志宇安左也可丹心者川可之支左滿志天末以利太滿
しうあさやかに心はつかしきさましてまいりたま

遍里君八西乃川万乃加宇良武丹於之閑、里伝
へり君は西のつまのかうらむにおしか、りて

霜可礼乃前裁見給保止也介利風安羅、可耳
霜かれの前裁見給ほと也けり風あら、かに

【葵】 78

婦幾時雨左止之多流保登涙毛安良曾婦心地之天
ふき時雨さとしたるほと涙もあらそふ心地して

雨止奈利雲止也成丹介无以万八志良春止宇地独
雨となり雲とや成にけんいまはしらすとち独

古知徒、川衣津幾多末部留御左滿女尔天八見
こちつ、つえつきたまへる御さま女にては見

寸帝、奈久奈良无玉之為可奈良春登末里奈武
すて、なくならん玉しぬかならずとまりなむ

加之止色女可之幾心耳宇知滿毛良連川、
かしと色めかしき心にうちまもられつ、

地可宇徒以為給部連八志止気奈久宇地三多礼堂
ちかうついぬ給へれはしとけなくうちみられた

末部留佐万奈可良奈越之飛茂八可利佐之奈越之
まへるさまなかなをしひもはかりさしなをし

太末不古礼八以万寸己之己滿也可奈流夏能御
たまふこれはいますこしこまやかなる夏の御

奈越之丹紅乃徒屋、可奈累比支加左年天也川礼
なをしに紅のつや、かなるひきかさかねてやつれ

【葵】79

多万遍流之毛見天毛安可奴心知楚守留中
たまへるしも見てもあかぬ心ちそする中

将毛以止安者礼奈留満美丹奈可女給部利
将もいとあはれなるまみになかめ給へり

雨登奈利時雨く空乃宇起雲越以川連乃方止
雨となり時雨く空のうき雲をいつれの方と

王起天奈可女無遊久惠奈之也止飛止里古止乃也宇
わきてなかめむゆく氣なしやとひとりことのやう

奈流遠
なるを

見之人乃雨止成尔之雲為左部以止、時雨能
見し人の雨と成にし雲あさへいと、時雨の

加幾久良須比止乃多末婦毛御氣色毛安左閑良奴
かきくらす比どのたまふも御氣色もあさからぬ

本登之流久見由連八安也之宇止之比八以止之毛
ほとしるく見ゆればあやしうとし比はいとしも

安良怒御心佐之遠院奈止井多知天乃給者世於止、乃
あらぬ御心さしを院などあたちての給はせおと、の

【葵】80

御毛天那之毛心久流之宇大宮乃御可多佐万丹毛天
御もてなしも心くるしう大宮の御かたさまにもて

者奈流末之幾奈止可太く尔佐之安比多礼者
はなるましきなどかたくにさしあひたれば

盈之毛不利春天給者天物宇氣奈留御遣之幾
えしもふりすて給はて物うけなる御けしき

奈可良安利部給不奈女利可之登以止遠之久三由留
なからありへ給ふなめりかしといとをしくみゆる

於利く安利徒留越万己止丹也武事奈久於毛幾
おりくありつるをまことにやむ事なくおもき

可多尔古止尔思比幾己衣多末比計留奈女里止
かたにことに思ひきこえたまひけるなめりと

見志流耳以与く久地於之宇於保遊与呂川尔
見しるにいよくちおしうおほゆるつに

徒介天飛可利宇世奴留心知之天久川之以多可利遣
つけてひかりうせぬる心ちしてくつしいたかりけ

利可礼多流志多草乃中丹里武太宇奈天之口奈止
りかれたるした草の中にむたうなてしこなど

【葵】 81

乃左起以天多留越於良勢多末比帝中將乃堂地のさきいてたるをわらせたまひて中將のたち

奴累後耳和可君乃御女能止乃宰相能君之天ぬる後にわか君の御めのとの宰相の君して

草可礼乃籬尔能己流奈天之己越和可礼之秋
草かれの籬にのこるなてしこをわかれし秋

乃可多見止曾美留丹保比於止利天也御覽世良流のかたみとそみるにほひおとりてや御覽せらる

良无止幾古盈多万部里希尔奈仁心奈幾御恵らんときこえたまへりけになに心なき御系

美顔曾以美之宇宇津久之幾宮八布久風
み顔そいみしうつくしき宮はふく風

丹徒気天太耳木乃葉与利遣丹毛呂幾御涙盤につけてたに木の葉よりけにもろき御涙は

満之天登利安部太万波春
ましてとりあへたまはず

今毛美天中く袖遠久多寸哉加幾保安礼丹之
今もみて中く袖をくたす哉かきほあれにし

【葵】 82

屋末止奈天之己奈越以美之宇川礼く奈連八安左やまとなてしこなをいみしうつくくなればあさ

可保乃宮耳介不乃安者礼八佐利止毛美之里太末かほの宮にけふのあはれはざりともみしりたま

婦良无止於之波可良流、御心者部奈礼半久良幾ふらんとおしはからる、御心はへなればくらき

本止奈礼登幾己盈給多衣万遠介礼止左乃物止ほとなれときこえ給たえま遠けれとさの物と

成仁多留文奈連八止可奈久天御覽世左寸空乃成にたる文なればとかなくて御覽せさす空の

色之多流可良乃可美丹
色したるからのかみに

和幾伝己能暮己曾袖八露遣、礼物思不秋八
わきてこの暮こそ袖は露け、れ物思ふ秋は

安末多遍奴連止以川毛時雨者登安利御手奈止心あまたへぬれといつも時雨はとあり御手なと心

止、女天加幾太末部累川年与利毛見所安利天寸久之と、めてかきたまへるつねよりも見所ありてすくし

【葵】 83

加多起保止奈利止人く毛幾己盈身徒可良毛於
かたきほとなりと人くもきこえみつからもお

保左礼氣連八於保宇知山遠思屋利幾古衣奈可良
ほされければおほうち山を思やりきこえながら

盈也八止天
えやはとて

秋霧耳立遠久礼奴止聞之与里時雨く
秋霧に立をくれぬと聞しより時雨く

曾良毛以可く止楚思不止乃三本能可奈留寸三川幾
そらもいかくとそ思ふとのみほのかなるすみつき

仁天於毛比奈之心丹久之奈尔事尔徒介天毛三
にておもひなし心にくしなに事につけてもみ

満左利八可多幾世奈女流遠津良幾人之毛曾安
まさりはかたき世なめるをつらき人しもそあ

者礼丹覚給人の御心さまなるつれななからさるへ
はれに覚給人の御心さまなるつれななからさるへ

幾於利く乃阿者礼遠春久之太万八奴己礼己曾可多
きおりくあはれをすくしたまはぬこれこそかた

【葵】 84

美丹奈左計毛見者川部幾王左奈礼猶由部与之春
みになさけも見はつへきわさなれ猶ゆへよしす

幾天人目耳美由波可利奈留八安未利乃奈武
きて人目にみゆはかりなるはあまりのなむ

毛以天幾介利多以乃姫君遠左八於本之多天
もいてきけりたの姫君をさはおほしたて

志止於保須川連く丹天恋之登思不良武可之
しとおほすつれくにて恋しと思ふらむかし

止和春類く於利奈介礼止太く女於也奈幾己越く幾
とわするくおりなけれとたくめおやなきこをき

太良武心知之天三怒本止宇之路女多字以可く思ふ
たらむ心ちしてみぬはどうしろめたういか思ふ

覽登於保衣奴曾心也寸起和左成計留久礼者天
覽とおほえぬそ心やすきわさ成けるくれはて

奴礼八御止乃安不良地可久満以良世給天佐留部幾
ぬれは御とのあふらちくまいらせ給てさるへき

加幾利乃人く御末遍尔天物可多里奈止世左勢
かきりの人く御まへにて物かたりなどせさせ

【葵】85

太末不中納言乃君止以婦八年己呂忍比於本之
たまふ中納言の君といふは年ころ忍ひおほし

志可止此御於毛飛乃本止八中く左也宇奈留寸地丹毛
しかと此御おもひのほどは申くさやうなるすぢにも

可計給波春安者礼奈流御心可奈止見多末末川留
かけ給はずあはれなる御心かなと見たてまつる

大可多仁盤奈川可之字、地可多良比堂万飛天加字
大かたにはなつかしう、ちかたらひたまひてかう

己能飛己呂安利之与里遣丹太連く毛満幾留、
このひころありしよりけにたれくもまざる、

加多那久見奈礼く伝美之毛川年尔可、羅春八恋
かたなく見なれくてみしもつねにかゝらすは恋

之加良之也以美之幾事遠八左流物丹天
しからしやいみしき事をはざる物にて

多、宇地於毛比女久良寸己曾多部可多起事於保
た、うちおもひめくらすこそたへかたき事おほ

可利介礼止乃太末部八以止、美奈、幾天以婦可比奈幾御
かりけれとのたまへはいと、みな、きていふかひなき御

【葵】86

事八太、加幾久良寸心地之侍留遠八佐留物尔天名
事はた、かきくらす心地し侍るをはざる物にて名

残奈幾左満耳安久可連者天給者无本止思比給不留
残なきさまにあくかれはて給はむほと思ひ給ふる

己曾登幾己衣毛屋良寸阿者礼止見和多之太末比
こそときこえもやらずあはれと見たしたまひ

天奈己利奈久八以可、八心安佐宇毛止利那之給毛
てなこりなくはいか、は心あさうもとりなし給も

乃可奈心奈可幾人多丹安良半美者天多末比奈无
のかな心なかき人たにあらはみはてたまひなん

物遠以乃知己曾波可奈介礼止天火遠宇地奈可女太
物をいのちこそはかなけれどて火をうちなかめた

末部累満美乃宇地奴連堂末部流保止曾女天多起
まへるまみのうちぬれたまへるほとそめてたき

止利和幾天羅宇太之給之知以左起和良者乃
とりわきてらうたし給しちいさきわらはの

於也登毛、奈久以止心保曾計丹思遍留古登波利尔
おやとも、なくいと心ほそけに思へることほりに

【葵】87

見太末比天安天幾八以末波我遠己曾八於毛婦部幾
見たまひてあてきははいまは我をこそはおもふへき

人奈女礼止乃多満部者以美之宇奈久保止奈幾阿
人なめれとのたまへはいみしうなくほとなきあ

己女人与利八久呂宇楚女天久呂幾加左美久八佐宇
こめ人よりはくろうそめてくろきかさみくはさう

色の波可満奈止幾太留毛於可之幾寸可多奈里武
色のはかまなときたるもおかしきすかたなりむ

可之遠忘連佐良武人盤川連く遠志乃比天毛遠
かしを忘れさらむ人はつれくをしのひてもを

左奈幾人遠見寸天春物之多末部美之世乃名
さなき人を見すてす物したまへみし世の名

己利奈久人く佐部可礼奈八多川幾奈佐毛万佐利
こりなく人くさへかれなはたつきなさもまさり

奴部幾奈武奈止三那古、路奈可、流部幾事止毛遠
ぬへきなむなどみなこゝろなかゝるへき事ともを

乃多末部止以天也以止、満知止越丹曾奈利多満八无
のたまへといてやいと、まちとをにそなりたまはん

【葵】88

登於毛不丹以止心保曾之大殿八人く耳幾者く
とおもふにいと心ほそし大殿は人くにははく

保止遠遠幾川、波可奈幾毛天安曾比物止毛又
ほとををきつ、はかなきもてあそひ物とも又

満己止仁加乃御可多美丹奈留部幾物奈止和左止奈良奴
まことにかの御かたみになるへき物などわざとならぬ

佐万丹止里那之津、美奈久八良世給介利君八
さまにとりなしつ、みなくはらせ給けり君は

閑久天乃美毛以可天可八徒久く止寸久之多満八无
かくてのみもいかてかはつくく、とすくしたまはん

止天院部万以利給御車佐之以帝、御前奈止
とて院へまいり給御車さしいて、御前など

万利安川末累保止於利志里可本奈留時雨宇地
まいりあつまるほとおりしりかほなる時雨うち

曾、幾天木葉佐曾不風安八多、志宇吹波良比多
そ、きて木葉さそふ風あはた、しう吹はらひた

累尔御末部丹左不良婦人く物以登心保曾久天春己之
るに御まへにさふらふ人く物いと心ほそくてすこし

【葵】89

飛万安利津留袖止毛字留比和多利怒与佐利八也
ひまありつる袖ともうるひわたりぬよざりはや

加天二条院耳登末利太末不遍之止天左不良飛
かて二条院にとまりたまふへしとてさふらひ

乃人く毛閑之己尔天滿地幾古衣无止奈留部之
の人くもかしこにてまちきこえんとなるへし

遠能く多知出留丹氣不丹之毛止地武末之幾
をのくたち出るにけふにしもとちむましき

事奈礼止又奈久物可那之於止毛宮毛介不
事なれと又なく物かなしおとも宮もけふ

乃氣色耳末多可奈之左安良太女天於保左留
の氣色にまたかなしさあらためておほさる

宮能御末部丹御世字曾己幾古盈多末部利院
宮の御まへに御せうそこきこえたまへり院

丹於保川可奈可利乃給八寸留仁与利遣婦奈武万以
におほつかなかりの給はするによりけふなむまい

里侍留安可良左滿耳立以天侍留尔川希天毛
り侍るあからさまに立いて侍るにつけても

【葵】90

介婦末天奈可良遍侍利丹計累与止美多利心知乃三
けふまてなからへ侍りにけるよとみたり心ちのみ

宇已起天奈武幾己衣左世无毛中く丹侍留部介連八
うこきてなむきこえせんも中く侍るへければ

楚奈多尔毛滿以里侍良奴止安礼八以止之宇宮盤
そなたにもまいり侍らぬとあれはいとしう宮は

女毛美衣給波春志川三入天御返毛幾己衣給
めもみえ給はすしつみ入て御返もきこえ給

波春於登曾也可帝和多利多万遍留以登太衣可多
はすおとそやかてわたりたまへるいとたえかた

遣丹於保之天御袖毛飛支波奈知多万波寿
けにおほして御袖もひきはなちたまはず

美多天末川留人く毛以止可奈之大将乃君八世
みたてまつる人くもいとかなし大将の君は世

遠於本之徒久流事以止佐万く丹天奈起給不
をおほしつくる事いとさまくにてなき給ふ

左滿安者礼丹心布可幾物可良以止佐万与久奈滿女幾
さまあはれに心ふかき物からいとさまよくなまめき

【葵】 91

太万遍利於止、飛佐之宇多女良比給帝与八比
たまへりおとゝひさしうためらひ給てよはひ

乃徒毛里尔八佐之毛阿留末之幾古止尔川希天太
のつもりにはさしもあるまじきことにつけてた

耳奈美多毛呂奈累王佐尔侍留越末之天比留与那
になみたもろなるわざに侍るをましてひるよな

久思堂末部末止八礼侍留心遠衣乃止女侍良称八人女
く思たまへまとはれ侍る心をえのとめ侍らねは人め

毛以止美多里加八之久心与波幾左満耳侍留部遣
もいとみたりかはしく心よはきさまに侍るへけ

連平院奈止丹毛盈万以利侍良奴也事乃徒为天
れは院などにもえまいり侍らぬ世事のつゐて

仁盤佐也字丹於毛武氣曾宇世左勢太末部以久波久毛
にはさやうにおもむけそうせさせたまへいくはくも

侍流末之幾於比乃寸惠耳打寸天羅連太留
侍るまじきおひのすゑに打すてられたる

可徒良宇毛侍累可那止天世女天思日之川女天乃給
かつらうも侍るかなとせめて思ひしつめての給

【葵】 92

気色以登和利那之君毛多比く者那宇知可美天遠久礼
気色いとわりなし君もたひくはなうちかみてをくれ

左起多川本止乃佐多免奈左八世乃佐可止見多末部志
さきたつほとのかためなさは世のさかと見たまへし

里奈可良佐之安多利伝於保衣侍留心満止比八多久
りなからさしあたりておほえ侍る心まとひはたく

飛安留万之幾和左丹奈武院丹毛安利佐万
ひあるまじきわざになむ院にもありさま

奏之侍良无丹於之波可良世給天武止幾己盈
奏し侍らんにおしはからせ給てむときえ

給佐良者時雨毛比万奈久侍女流遠暮奴本登
給さらは時雨もひまなく侍めるを暮ぬほと

丹止楚、乃可之幾古盈多末不宇地見満八之
にとそゝのかしきこえたまふうちみまはし

太末婦尔御木帳乃宇之呂佐宇之乃安那多奈止乃
たまふに御木帳のうしろさうしのあなたなどの

安幾止本利多留奈止丹女房三十人八可利於之己
あきとほりたるなどに女房三十人はかりおしこ

【葵】 93

里天已起字寸幾丹比色止毛越幾徒、美奈以見之字
りてこきうすきにひ色ともをきつゝ、みないみしう

心保曾遣丹天宇地之保多札川、為安川末利多留越以止
心ほそけにてうちしほたれつゝ、ゐあつまりたるをいと

安者札止見多末不於保之春川末之幾人毛登末利太
あはれと見たまふおほしすつましき人もとまりた

末部連八佐利止毛物乃徒為天尔八多地与良世給八之也
まへれはざりとも物のつゐてにはたちよらせ給はしや

奈登奈久佐女侍留越飛止部耳思屋利奈幾祿宇
などなくさめ侍るをひとへに思やりなきねう

波宇奈止八遣不遠加幾里丹於本之春天徒留
はうなどはけふをかきりにおほしすてつる

古郷止於毛比久川之天奈可久別奴累可奈之飛
古郷とおもひくつしてなかく別ぬるかなしひ

与利毛多、時く奈札川可宇末川留年月乃名残
よりもたゝ時くなれつかうまつる年月の名残

奈可流部幾遠歎幾侍女類奈武古登八利奈流
なかるへきを歎き侍めるなむことほりなる

【葵】 94

宇地止希於者之末寸事八侍良佐利川連止佐利
うちとけおはします事は侍らざりつれとさり

止毛徒井尔八登安比奈多乃女之侍留遠氣耳
ともつゐにはとあひなたのめし侍るをけに

己曾心保曾幾由不部尔侍札止天毛奈起多末比奴
こそ心ほそきゆふへに侍れとてもなきたまひぬ

以登安左波可奈流人く乃奈氣幾仁毛侍留可那滿
いとあさはかなる人くのなけきにも侍るかなま

己止丹以可奈利止毛止乃止可仁思給部津留本止八遠乃
ことにいかなりともとのとかに思給へつるほとはをの

徒可良御女可流、於利毛侍利川良武遠中くく以
つから御めかるゝおりも侍りつらむを中くくい

末波何遠多能三天可八於己多里侍良无今御
まは何をたのみてかはおこたり侍らん今御

覽之天无登天出給於止、美遠久里幾己衣給
覽してんとて出給おとゝみをくりきこえ給

徒、入給部留耳御志川良飛与利波之女安利之尔
つゝ入給へるに御しつらひよりはしめありしに

【葵】 95

加波留事毛奈介礼止宇川世見乃武那之幾心知曾
かはる事もなけれどうつせみのむなしき心ちそ

志給不見丁乃末部丹御碗奈止遠宇知地良之伝手
し給ふみ丁のまへに御碗などをうちちらして手

奈良飛寸天太末部留遠登利天女越於之志保里川、
ならひすてたまへるをとりてめをおししほりつ、

遠和可幾人く八可奈之幾中丹毛本、恵武毛安流
をわかき人くはかなしき中にもほゝゑむもある

遍之安者礼奈留婦留事止毛加良乃毛也末止乃加
へしあはれなるふる事ともからのもやまとのか

幾気可之津、佐宇丹毛満那尔毛佐万く女川良之幾
きけかしつ、さうにもまなにもさまくめつらしき

左満耳可起末世末遍留閑之己乃御手也止
さまにかきませたまへるかしこの御手やと

空遠安不幾天奈可女多末不与楚人耳見奈之
空をあふきてなかめたまふよそ人に見なし

多天末川良武可於之幾成部之婦留幾枕不留起
たてまつらむかおしき成へしふるき枕ふるき

【葵】 96

不寸満堂礼止毛丹可登安留所耳
ふすまたれともにかとある所に

奈幾玉楚以止、可那之幾祢之止己乃安久可礼
なき玉そいと、かなしきねしとこのあくかれ

可多幾心奈良飛尔又霜乃花志呂之登安流止
かたき心ならひに又霜の花しろしとあると

己呂丹
ころに

君奈久天地利徒毛利奴留登己夏乃露宇地
君なくてちりつもりぬるとこ夏の露うち

波良比以久夜祢奴良无一日乃者那奈留遍之可礼
はらひいく夜ねぬらん一日のはなるへしかれ

天末之連里宮耳御覽世左世末天末比天以
てましれり宮に御覽せさせたまひてい

婦可比奈幾事遠八佐留物尔天可、流可奈之幾
ふかひなき事をはさる物にてかゝるかなしき

太久比世丹奈久也八止想奈之津、閑久契奈可
たくひ世になくやはと思なしつ、かく契なか

【葵】 97

可良天加久心遠末止波寸部久己曾八安利希女登加
からてかく心をまとはすへくこそはありけめとか

遍利天八川良宇佐幾乃世遠於毛比屋利徒、奈武左
へりてはつらうさきの世をおもひやりつゝなむさ

末之侍越多、日比耳曾部天恋之左乃太盈
まし侍をたゝ日比にそへて恋しさのたえ

加多幾止此大將君乃今者登与楚尔成多万八无
かたきと此大將君の今はとよそに成たまはん

奈無安可寸以美之久思多滿部良留、飛止比不川可毛
なむあかすいみしく思たまへらるゝひとひふつかも

美衣給八寸可礼く丹於八世之遠多耳阿可寸武
みえ給はずかれくにおはせしをたにあかすむ

祢以多宇思比侍之遠安左夕乃飛可利宇之奈比天八
ねいたう思ひ侍しをあさ夕のひかりうしなひては

以可天可世尔奈可良婦部可良武止御己惠毛盈志乃比安部
いかてか世になからふへからむと御こゑもえしのひあへ

多万八春奈以給丹御末遍奈留於止奈く之幾人
たまはずない給に御まへなるおとなくしき人

【葵】 98

奈登以止可奈之宇天佐止宇地奈幾多流曾、呂左武幾
なといとかなしうてさとうちなきたるそゝらさむき

夕乃氣色奈利和可幾人く止己呂く丹武連為川、
夕の氣色なりわかき人くところくむれあつゝ

遠能可止地安者礼奈累事止毛打可多良飛天殿乃
をのかとちあはれなる事とも打かたらひて殿の

於本之乃給者寸留也字仁和可君遠見多天末川利天
おほしの給はするやうにわか君を見たてまつりて

己曾八奈久左武部可武女礼登思毛以止波可奈幾本止乃
こそはなくさむへかむめれと思もいとほかなきほどの

御可多美丹己曾止天遠能く安可良佐万丹滿可天、万以
御かたみにこそとてをのくあからさまにまかて、まい

羅無奈止以婦毛安礼八加多見耳別遠於之武保
らんなどいふもあればかたみに別をおしむほ

止遠乃可志、阿者礼奈留事止毛於保可留院部滿以
とをのかし、あはれなる事ともおほかる院へまい

里太末部連八以止以多宇於毛也世耳介利佐宇之尔天
りたまへれはいといたうおもやせにけりさうしにて

【葵】 99

日越布留希丹也止心久類之遣仁於本之女之伝
日をふるけにやと心くるしけにおほしめして

御末部尔天物奈止満以良世給天止也加宇也登於保之
御まへにて物なとまいらせ給てとやかうやとおほし

安川可比幾古衣左世多末部累左満安者礼耳加多之希
あつかひきこえさせたまへるさまあはれにかたしけ

那之中宮乃御可多丹万以利給部連半人く女川良之可利
なし中宮の御かたにまいり給へれば人くめつらしかり

見多天末川留命婦能君之天思川幾世奴事止毛
見たてまつる命婦の君して思つきせぬ事とも

遠本止婦留耳川希天毛以可尔登御世宇楚己幾己盈
をほとふるにつけてもいかにと御せうそこきこえ

堂万部里川年奈幾世盤於保可多尔毛於毛飛太末部志里
たまへりつねなき世はおほかたにもおもひたまへしり

仁之遠女丹知可久美侍利津留尔以止者之幾事
にしをめにちかくみ侍りつるにいとほしき事

於保久思多満部三多礼之毛多比く乃御世宇楚己耳
おほく思たまへみたれしもたひくの御せうそこに

【葵】 100

奈久佐女侍天奈武介不末天裳止天左那良奴於利
なくさめ侍てなむけふまでもとてさならぬおり

多仁安流御希之幾止里曾遍天以止心久流之気
たにある御けしきとりそへていと心くるしけ

也武毛无乃字部乃御曾丹、比色乃志多加左年恵以未起
也むものうへの御そに、ひ色のしたかさねえいまき

給部留屋川礼寸可多花也可奈留御与曾比与利毛奈満
給へるやつれすかた花やかなる御よそひよりもなま

女可之左末佐利多末部里春宮耳毛比左之久末
めかしさまさりたまへり春宮にもひさしくま

以良奴於保川可那佐止幾己盈太末比天夜深天楚
いらぬおほつかなさときこえたまひて夜深てそ

満可天給二条院尔八加多く波良飛見可起帝於止己
まかて給二条院にはかたくはらひみかきておとこ

女末地幾己衣多里上臈止毛三那末宇乃本利天王
女まぢきこえたり上臈ともみなまうのほりてわ

連毛く登佐宇曾幾遣佐宇之多留遠見流尔徒気
れもくとさうそきけさうしたるを見るにつけ

【葵】101

天毛彼以奈美久川之多里徒留遣之幾止毛楚阿
ても彼いなみくつしたりつるけしきともそあ

者礼耳思出良連太末婦御左字曾久堂天末川利
はれに思出られたまふ御さうそくたてまつり

加部帝西乃多以耳和多利給部利衣可部乃御志川良
かへて西のたいにわたり給へり衣かへの御しつら

飛久毛利奈久安左也可仁美衣天与幾和可人和良八部乃奈
ひくもりなくあさやかにみえてよきわか人わらはへのな

里寸可多女也寸久止、乃部天少納言可毛天那之
りすかためやすくとゝのへて少納言かもてなし

心毛止奈幾所奈久古、呂丹久之登見太末婦姫
心もとなき所なくこゝろにくしと見たまふ姫

君以止字津久之字比幾徒久呂比天於者寸留飛
君いとうつくしうひきつくろひておはするひ

左之閑利徒留本止丹以止己与奈久己曾於止奈比
さしかりつるほとにいとこよなくこそおとなひ

給耳遣礼止天知以佐幾見幾丁引安希天美
給にけれとてちいさきみき丁引あけてみ

【葵】102

多天末川里給部八字地曾者美天波知良比多末部
たてまつり給へはうちそはみてはちらひたまへ

類御左満安可奴登己呂奈之保可計乃御可多八良女加之
る御さまあかぬところなしほかけの御かたはらめかし

羅川幾奈止多、彼心徒久之幾己由留人耳太可不
らつきなとた、彼心つくしきこゆる人になかふ

所奈久毛成遊久可奈止見給尔以登字礼之地可宇
所なくも成ゆくかなと見給にいとうれしちかう

与利多末比天於保川可那可利徒累本止乃事止毛奈
よりたまひておほつかなかりつるほどの事ともな

登幾己盈堂末比天己呂乃物可多利乃登可耳
ときこえたまひて日ころの物かたりのとかに

幾古衣末本之介礼止以満く志字覚侍礼半志八之
きこえまほしけれといましくしう覚侍れはしはし

古登可多丹也春良比天万以利己武今八登多衣奈久
ことかたにやすらひてまいりこむ今はとたえなく

美多天末川留部介礼八以止者志久佐部也於保左連无止
みたてまつるへければいとほしくさへやおほされんと

【葵】
103

加多良飛幾己盈給不遠少納言八字礼之登幾久物
かたらひきこえ給ふを少納言はうれしときく物

可良猶安屋之久思比幾己遊也武己止奈幾忍比
から猶あやしく思ひきこゆやむことなき忍ひ

所於保久加、川良比太末部連八又和川良者之幾也
所おほくかゝつらひたまへれば又わつらはしきや

多知加八利多万八无止於毛不曾仁久幾心奈留屋
たちかはりたまはんとおもふそにくき心なるや

和可方耳王多里給天中将乃君止以婦耳御
わか方にわたり給て中将の君といふに御

安之奈登万以利寸左比天於保止能古毛利奴朝
あしなとまいらすさひておほとこのこもりぬ朝

尔八和可君乃御毛止丹文多末末川利堂末不安
にはわか君の御もとに文たてまつりたまふあ

者礼奈流御返遠美給不尔毛川幾世奴事止毛乃三
はれなる御返をみ給ふにもつきせぬ事どものみ

奈武以止川連く、丹奈可女加地奈礼止何止奈幾御安利
なむいとつれくになかめかちなれと何となき御あり

【葵】
104

幾毛物宇久於本之奈良礼伝於保之太、連寿
きも物うくおほしなられておほした、れす

姫君乃何事毛安良万保之宇登、乃比出天以
姫君の何事もあらまほしうと、のひ出てい

登女天太宇乃三美盈給遠丹計奈可良奴保止丹者
とめてたうのみみえ給をにけなからぬほとには

多美奈之太末部連八気色波三多留事奈止於利く
たみなしたまへれば気色はみたる事などおりおり

幾古衣古、路三多末部止見毛志利堂万波奴
きこえこゝろみたまへと見もしりたまはぬ

気色奈利川連く、奈流末、丹多、己那多丹天暮
気色なりつれくなるまゝにたゝこなたにて暮

宇知遍武徒幾奈止之津、日越久良之給耳
うちへむつきなどしつ、日をくらし給に

心者部乃羅宇く、之宇安以幾也宇津支波可奈幾
心はへのらうくしうあいきやうつきはかなき

太者不連事乃中丹毛宇徒久之幾寸知遠之出
たはふれ事の中にもうつくしきすちをし出

【葵】105

太末遍半於本之波奈知多流止之月己曾多、
たまへはおほしはなちたるとし月こそた、

佐留可多乃良宇太左乃三八安利川連忍比可多久成
さるかたのらうたさのみはありつれ忍ひかく成

帝心久類之介礼登以可、有介无人乃氣地女見
て心くるしけれといか、有けん人のけちめ見

多天末川利和久部幾御中尔毛安良怒遠於止己君
たてまつりわくへき御中にもあらぬをおとこ君

八登久於支給天女君盤佐良丹於幾太万八奴安
はとくおき給て女君はさらにおきたまはぬあ

之多安利人く八以可奈礼者加久於者之末寸奈良武
したあり人くはいかなれはかくおほしますすならむ

御心知乃連以奈良須於保左留、尔也止美多天末川利
御心ちのれいならずおほさる、にやとみたてまつり

奈希久仁君八和多利給止天御寸、里乃箱遠御
なけくに君はわたり給として御す、りの箱を御

丁乃宇地耳佐之入天於者之丹介人満尔加良宇
丁のうちになし入ておはしにけり人まにからう

【葵】106

志天関之良越毛多計給部留耳飛幾武春比多留
してかしらをもたけ給へるにひきむすひたる

文御枕乃毛止丹安利奈仁心奈久引安氣天見太
文御杖のもとにありな心なく引あけて見た

末部者
まへは

安也奈久毛遍多天計累哉夜遠加佐年佐春可耳
あやなくもへたてける哉夜をかさねさすかに

奈礼之中の衣遠登加幾寸左比給部留也宇也加、流御
なれし中の衣をとかきささひ給へるやう也かゝる御

心於者寸良武止八加希天毛於保之与良佐利之可八奈止
心おはすらむとはかけてもおほしよらさりしかはなと

天加宇心宇可利遣流御心越宇良奈久多能毛之幾
てかう心うかりける御心をうらなかつたのもしき

物耳思比幾古衣介武止安左末之宇於保左流比
物に思ひきこえけむとあさましようおほさるひ

類川可多和多里多末比天奈也満之氣耳志多末不
るつかたわたりたまひてなやましけにしたまふ

覽八以可奈流御心知曾介不八古毛見多天佐宇く之也
覽はいかなる御心ちそけふはこもみたてさうくしや

止天乃曾幾給部八以与く御曾飛幾可川幾天婦之
とのそき給へはいよく御そひきかつきてふし

太万部里入く八志利曾起津、左婦良部半与里多万
たまへり人くはしりそきつ、さふらへはよりたま

比天奈登可久以不世幾御毛天奈之楚思比乃
ひてなとかくいふせき御もてなしそ思ひの

保可耳心宇久己曾於者之介礼奈人毛以可丹安也
ほかに心うくこそおはしけれな人もいかにあや

志登思不良无止天御布寸満遠比幾屋利多末部半
しと思ふらんとて御ふすまをひきやりたまへは

安世尔於之飛多之伝比多飛髪毛以多字奴連太
あせにおしひたしてひたひ髪もいたうぬれた

末部利安那宇多天己礼八由、之幾和左曾止天与呂川
まへりあなうたてこれはゆ、しまわさそとてよろつ

仁己之良部幾己盈給部止満己止丹以止徒良之登
にこしらへきこえ給へとまことにいとつらしと

於毛比給天露乃御以良遍毛之給者寸与之く
おもひ給て露の御いらへもし給はずよし

佐良丹美衣多天末川良之以止波川可之奈止惠无之
さらにもえたてまつらしいとはつかしなとゑんし

多末比天御春、里安希天見堂末部止物毛奈計
たまひて御す、りあけて見たまへと物もなけ

連八和可乃御有左満也止羅宇多久美多天満川利
れはわか御有さまやとらうたくみたてまつり

給天日比止比以利為天奈久佐女幾己盈給部止
給て日ひとひりゐてなくさめきこえ給へと

登氣可多幾御遣之幾以止、羅宇太希也曾乃
とけかたき御けしきいと、らうたけ也その

与佐利乃為能己乃毛知井末以良世多利可、類御思比
よさりのゐのこのもちゐまいらせたりかゝる御思ひ

乃保止奈連八古止く之幾左満尔八安良天己那多
のほとなれはことくしきさまにはあらてこなた

八可利丹於可之希奈留飛八利己奈登波可利遠以
はかりにおかしけなるひりこなとはかりをい

【葵】 109

呂く仁天滿以礼留遠見給天君三那美乃加多丹出
ろくにてまられるを見給て君みなみのかたに出

太末比天惟光遠女之天此毛知為加宇可寸く丹
たまひて惟光をめでして此もちぬかうかすくにて

所世起左滿尔波安良天阿春乃久礼耳万以良世与今日
所せきさまにはあらてあすのくれにまいらせよ今日

八以万く之幾日奈利氣利登字知保、惠三天
はいまくしき日なりけりとうちほゝ系みて

乃多末不御希之幾遠心止幾毛乃丹天布止思与
のたまふ御けしきを心ときものにてふと思よ

里奴惟光太之可仁天毛宇計多滿八良天遣尔安以行
りぬ惟光たしかにてもうけたまはらてけにあい行

波之女八日盈利之天幾己之女寸部幾丹已曾
はしめは日えりしてきこしめすへきにごそ

左天毛称乃己八以久川可川可宇末川良春部宇侍良无登
さてねのこはいくつかつかうまつらすへう侍らんと

滿女多地天申世八三川可飛止川丹天毛安良武可之止
まめたちて申せはみつかひとつにてもあらむかしと

【葵】 110

乃多末不丹心盈波天、堂地奴物奈礼乃左滿也止君
のたまふに心えはて、たちぬ物なれのさまやと君

八於保春人耳毛以者天手川可良登以婦八可利佐尔天
はおほす人にもいはて手つからといふはかりさにて

楚津久利為多里計累君盤古之羅部和比給天
そつくりみたりける君はこしらへわひ給て

以滿八之女天怒寸美毛天幾多良武人乃心知寸流毛
いまはしめてぬすみもてきたらむ人の心ちするも

以登於可之宇天止之己呂安者礼止思比幾己盈徒留
いとおかしうてとしころあはれと思ひきこえつる

盤可多波之丹毛安良佐利遣里人乃心己曾宇多天
はかたはしにもあらさりけり人の心こそうたて

安留物八阿連以万八一夜遠毛遍多天无事和利奈
ある物はあれいまは一夜をもへたてん事わりな

加留部幾事止於保左留能給之毛知并忍比天以多宇
かるへき事とおほさるの給しもちぬ忍びていたう

夜不可之天毛帝万以礼利少納言盤於止那之宇天波
夜ふかしてもてまいれり少納言はおとなしうては

徒可之久也於保左武止思日也利婦可久心志良飛天武寸
つかしくやおほさむと思ひやりふかく心しらひてむす

女能弁止以不遠与比以天、己礼志乃比天満以良世太
めの弁といふをよひいて、これしのひてまいらせた

末遍止天加宇己乃箱遠一佐之入多利太之可仁御
まへとてかうこの箱を一さし入たりたしかに御

枕可美耳末以良寸部幾以者井乃物尔侍留安那可
枕かみにまいらすへきいはの物に侍るあなか

之己安奈多仁奈止以部者安也之登於毛部止阿他
しこあなたになどいへはあやしとおもへとあた

奈流事八満多奈良波奴物遠止天登連八満古止尔
なる事はまたならばぬ物をとてとれはまことに

今八佐留毛之以末世給部与、毛末之里侍良之
今はさるもしいませ給へよ、もましり侍らし

止以婦和可幾人丹天希之幾毛衣婦可久思与良称
といふわかき人にてけしきもえふかく思よらね

者毛天満以利天御枕神乃御木張与利佐之人
はもてまいりて御枕神の御木張よりさし入

多留越君曾礼以能幾古衣志良世太末婦良无可之人八
たるを君それいのきこえしらせたまふらんかし人は

盈志良奴耳徒止女天此波己遠満可天左勢多
えしらぬにつとめて此はこをまかせて

末川累丹曾志多之幾加幾利乃人、思安者寸留事
まつるにそしたしきかきりの人、思あはする事

止毛、有計留御佐宇止毛以川乃万仁可志以天介无花
とも、有ける御さうともいつのまにかしいてけん花

曾久以止幾与良丹之天毛地為乃佐万毛古止左良
そくいときよらにしてもちぬのさまもことさら

飛以登於可之宇止、乃部多利少納言八以止加宇之毛也
ひいとおかしうと、のへたり少納言はいとかうしもや

止己曾思比幾己盈左世川連安者礼耳可多之遣
とこそ思ひきこえさせつれあはれにかたしけ

奈久於保之以多良奴事奈幾御心者部遠末川宇地
なくおほしいたらぬ事なき御心はへをまつうち

奈可礼八左天毛宇地、丹乃給八世与可之彼人毛
なかれぬさてもうち、にの給はせよかし彼人も

【葵】 113

以可丹思比川良无登佐、女幾安部里閑久天後八内丹毛
いかに思ひつらんとさゝめきあへりかくて後ほ内にも

院尔毛安可良左満耳万以利太末部累保止丹太尔
院にもあからさまにまいたりたまへるほどにたに

志徒心那久於毛影尔恋之介礼半安屋之乃心也止
しつ心なくおも影に恋しければあやしの心やと

我奈可良於保佐留加与比給之所く、与里八字良女之
我なからおほさるかよひ給し所く、よりはうらめし

氣耳於止呂可之幾己盈給比奈止守礼八以止、
けにおとろかしきこえ給ひなとすれはいと、

於之登於本春毛阿連止新手枕乃心久流之宇天
おしとおほすもあれと新手枕の心くるしうて

夜遠也遍多天武止於本之王川良波留連八以登
夜をやへたてむとおほしわつらはるれはいと

物宇久伝奈也末之希丹能三毛天奈之給天
物うくてなやましけにのみもてなし給て

世中能以止宇久於保由留本登寸久之天奈武人丹毛
世中のいとうくおほゆるほどすくしてなむ人にも

【葵】 114

美盈多天末川留部幾止能三以良部給川、春久之給
みえたてまつるへきとのみいらへ給つ、すくし給

以満幾左起八見久之氣殿奈越己乃大将耳乃三
いまきさきはみくしけ殿なをこの大将にのみ

心川氣太末部留遠氣仁者多加久屋武事奈可里
心つけたまへるをけにはたかくやむ事なかり

徒留可多毛宇世給奴女留遠左天毛安良無丹奈登可
つるかたもうせ給ぬめるをさてもあらむになとか

久地於之可良武奈止於止、乃給耳以登仁久之止
くちおしからむなとおと、の給にいとにくしと

於毛比幾己盈給天宮徒可部毛遠左く、志久多仁
おもひきこえ給て宮つかへもをさく、したに

之那之多末部良者奈止可安之可良武止万以良世太天
しなしたまへらはなとかあしからむとまいらせたて

末川良无事遠於本之波希无君毛於之奈部伝乃左満
まつらん事をおほしはけん君もおしなへてのさま

尔八寛佐利之越久知於之止於保世登太、今八
には寛さりしをくちおしとおほせとた、今は

【葵】
115

古登佐万仁王久流御心毛奈久天奈丹可八加者可利美之
ことさまにわくる御心もなくてなにかはかはかりみし

可、女類世耳加久天毛思比左太末利奈武人乃恨
か、めるよにかくても思ひきたまりなむ人の恨

毛於婦末之加利遣里止以止、安也字久於毛
もおふましかりけりといと、あやうくおも

本之古利丹堂利彼三也春所八以止、於之介礼
ほしこりにたり彼みやす所はいと、おしけれ

登満己止乃与流部止太乃三幾古衣无尔波加奈良春
とまことによるへとたのみきこえんにはかならず

古、呂遠可礼奴部之年比乃也字仁天見寸久之
こゝろをかれぬへし年比のやうにて見すくし

太満八、佐留部幾於利婦之丹物幾己衣阿者寸流
たまは、さるへきおりふしに物きこえあはする

人尔天八安良无奈止佐寸可仁事乃外尔八於保之
人にてはあらんなどさすかに事の外にはおほし

波奈多須此姬君遠以末、天世人毛曾能人登志
はなたす此姫君をいま、て世人もその人とし

【葵】
116

里幾古衣奴毛希奈幾也字也知、宮耳志良世
りきこえぬも物けなきやう也ち、宮にしらせ

幾己盈天无登於本之成天御裳幾乃事
きこえてんとおほし成て御もきの事

人耳安満祢久八乃多末八年登奈遍天奈良怒左満
人にあまねくのはたまはねとなへてならぬさま

仁於本之末字久流御与不為奈止以登有可多遣
におほしまうくる御よふぬなといと有かたけ

礼止女君八己与那久宇止美幾己衣給天登之
れと女君はこよなくうとみきこえ給てとし

古呂与呂川耳太乃三幾古盈天末川八之幾
ころよろつにたのみきこえてまつはしき

古衣介流己曾安左末之幾心成介礼止入屋之宇
こえけるこそあさましき心成けれとくやしう

乃三於本之伝佐也可丹毛見安八世多天満川利多
のみおほしてさやかにも見あはせたまつりた

万波春幾己衣多王不連堂末毛以止久流之宇
まはすきこえたわふれたまふもいとくるしう

【葵】 117

和利奈幾物耳於本之武春保、連天安利之尔毛
わりなき物におほしむすほゝれてありしにも

安良須奈利給部累御安利佐万遠於可之字毛以登
あらずなり給へる御ありさまをおかしうもいと

於之字毛於保左礼天止之古路思幾己衣之本
おしうもおほされてとしころ思きこえしほ

飛奈久奈連八末佐良良御氣色乃心字起事止
ひなくなれはまさらぬ御け色の心うき事と

宇良見幾古盈給不本止丹年毛婦利奴徒以
うらみきこえ給ふほとに年も歸りぬついで

多地乃日八連以乃院耳万以利給天曾内春宮
たちの日はれの院にまいり給てそ内春宮

耳毛末以利給曾礼与利大殿尔満可天多末部
にもまいり給てそれより大殿にまかてたまへ

里於止、阿多良之幾止之止毛以者寸武可之乃
りおとゝあたらしきとしともいはすむかしの

御事止毛幾古衣出給天佐字く之志久可那之
御事ともきこえ出給てさうくししくかなし

【葵】 118

登於保寸丹以登、閑久佐部和多里多末部累耳
とおほすにいとゝかくさへわたりたまへるに

川希天祢武之返之太末部止多部加多久於本之多
つけてねむし返したまへとたへかたくおほした

里御年乃久者、流希尔也毛乃く志幾氣佐部
り御年のくはゝるけにやものくしきけさへ

曾比多末比天安利之与里希仁幾与良丹美衣
そひたまひてありしよりけにきよらにみえ

太末不立出天御可多尔入給部連八人く祢良宇
たまふ立出て御かたに入給へれば人くねらう

見多天末川利忍比安部春和可君美多天末川
見たてまつりて忍ひあへすわか君みたてまつ

利堂末部八古与奈久於与寸計天宇地和良飛加知丹
りたまへはこよなくおよすけてうちわらひかちに

於者寸流毛阿者礼也末見久地川幾多、春宮乃
おはするもあはれ也まみくちつきた、春宮の

御於那之佐万奈礼半人毛己曾美多天末川里登可
御おなしさまなれは人もこそみたてまつりとか

武連止見太末不御志川良飛奈止毛加波良春見
むれと見たまふ御しつらひなともかはらすみ

曾可計乃御佐宇曾久奈登礼以乃屋宇丹志可計良礼
そかけの御さうそくなとれいのやうにしかけられ

太留耳女乃可奈良波奴己曾波部奈久佐宇く之遣
たるに女のかならばぬこそはへなくさうくしけ

礼宮乃御世宇曾久仁天介不八以美之久思太末遍
れ宮の御せうそくてけふはいみしく思たまへ

志乃不留遠加久和多良世太末部繁耳奈武中く奈登
しのふるをかくわたらせたまへるになむ中くなと

幾古衣給比天武可之仁奈良比侍利丹計留御与楚
きこえ給ひてむかしにならひ侍りにける御よそ

比毛月比八以止、涙尔霧婦多加利天色安比奈
ひも月比はいと、涙に霧ふたかりて色あひな

具御覽世良連侍良武止於毛飛太末不連登
く御覽せられ侍らむとおもひたまふれと

今日八可利八奈越也徒連左世給部止天以三之久志
今日はかりはなをやつれさせ給へとていみしくし

徒久之多末部粟物止毛又加左祢天太末川連給部里
つくしたまへる物とも又かさねてたてまつれ給へり

加那良春遣婦多天末川留部之止於保之介流御志多加
かならすけふたてまつるへしとおほしける御したか

左年八色毛於利佐万毛与能川祢奈良春心古登
さねは色もおりさまよのつねならす心こ

奈流遠加比奈久也八止天幾可遍給己佐良末之
なるをかひなくやはとてきかへ給こさらまし

可八久地於之宇於保左末之登心久類之御返仁
かはくちおしうおほさましと心くるし御返に

盤春也来奴留止毛先御覽世良連丹奈武滿
は春や来ぬるとも先御覽せられになむま

以利侍里川礼止思不末末部出良流、止事止毛於保久伝
いり侍りつれと思ふたまへ出らるゝ事ともおほくて

衣幾古盈左世侍良寿
えきこえさせ侍らす

安末多年介婦安良太女之色己呂毛幾天盤
あまた年けふあらためし色ころもきては

【葵】
121

奈美多楚婦留心地春流盈已曾思多末部志徒女
なみたそふる心地するえこそ思たまへしつめ

祢登幾古衣多万遍利御返之
ねときこえたまへり御返し

阿多良之幾年止毛以者寸不留物八布里奴留人乃
あたらしき年ともいはすふる物はふりぬる人の

奈三成介利於呂可奈流部幾事丹楚安良奴也
なみた成けりおろかなるへき事にそあらぬや

【葵】
122

延徳二年十二月廿三日

左近中将藤原雅冬花押